

シラバス

2025年度 夜間部1年



学校法人 札幌青葉学園

✻ 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
	歯科衛生士学校教育課程	P2
	授業実施計画表	P3
1	生物学・組織発生学	P4
2	生化学	P6
3	教養基礎	P8
4	解剖学・口腔解剖学	P10
5	生理学・口腔生理学	P12
6	口腔組織発生学	P16
7	歯牙解剖学	P18
8	薬理学・口腔薬理学	P20
9	微生物学・口腔微生物学	P22
10	口腔衛生学・歯科衛生統計 I	P24
11	歯科衛生士概論	P26
12	歯科臨床概論	P28
13	歯科保存学 I	P30
14	歯科補綴学 I	P32
15	う蝕予防処置法	P34
16	歯科予防処置論 I	P36
17	歯科予防処置実習 I	P38
18	歯科保健指導論 I	P40
19	歯科保健指導実習 I	P42
20	歯科診療補助論 I	P44
21	歯科診療補助実習 I	P46

P48

富地・臨床実習 : 1単位45時間

授 業 実 施 計 画 表(夜間部)

科目 学則で定める科目名称	区分	授業 形式	学則等規定		第1学年												
			単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
生物学・組織発生学	必修	講義	2	30													
生化学	必修	講義	2	30													
教養基礎	必修	講義	1	15													
解剖学・口腔解剖学	必修	講義	3	45													
生理学・口腔生理学	必修	講義	3	45													
口腔組織発生学	必修	講義	1	15													
歯牙解剖学	必修	講義	2	30													
薬理学・口腔薬理学	必修	講義	2	30													
微生物学・口腔微生物学	必修	講義	2	30													
口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅰ	必修	講義	2	30													
歯科衛生士概論	必修	講義	1	15													
歯科臨床概論	必修	講義	1	15													
歯科保存学Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科補綴学Ⅰ	必修	講義	1	15													
う蝕予防処置法	必修	講義	1	15													
歯科予防処置論Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科予防処置実習Ⅰ	必修	実習	1	30													
歯科保健指導論Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科保健指導実習Ⅰ	必修	実習	1	30													
歯科診療補助論Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科診療補助実習Ⅰ	必修	実習	2	60													
臨地実習・臨床実習Ⅰ	必修	実習	4	180													
			36	720													

1. 生物学・組織発生学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担 当 教 員 名	飯塚 正
授 業 科 目 概 要	生物を構成する要素、特に人体の構成要素についてその発生や構造、機能について学ぶ。
目 的	医療従事者として、また歯科衛生士として必ず知っていなければならない人間の体の構造と機能を理解するために必要な生物学および組織発生学の基礎的事項を習得する。
学 習 目 標	・生物とは何かを理解する。 ・生物進化を学び生命の変遷を理解する。 ・生物構成する基本的な物質を理解する。 ・生物の基本単位である細胞の構造・機能を理解する。 ・遺伝子の構造と機能を理解する。 ・染色体、細胞分裂、遺伝とその法則を理解する。 ・受精から個体発生までの過程を知って発生について理解する。 ・体を構成する組織の構成と機能について理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・筆記試験として、中間試験（確認テスト）および期末試験（定期試験）を行う。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	・授業プリントを配布する ・歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～3	生物の誕生と進化と細胞、生物を構成する物質（原子）
4～6	生物を構成する物質（水・無機化合物・有機化合物）
7～9	細胞膜の構造と機能、細胞小器官
10～12	細胞核・DNA・遺伝子・タンパク合成・染色体・細胞分裂
13～15	遺伝・生殖器官
16～18	人体の発生（受精から出産まで）、上皮組織
19～21	支持組織（結合組織・軟骨組織・骨組織）
22～24	神経組織
25～27	筋組織（骨格筋・心筋・平滑筋）、血液
28～30	免疫

2. 生化学

2 単位（必修）

第 1 学年 （30 時間）

担 当 教 員 名	藤 沢 隆 一
授 業 科 目 概 要	わたしたちの体を構成する物質である、タンパク質、糖質などがどういうものか、そして、それらがどのようにして働いているかを学びます。後半では、歯科特有のテーマに注目して、歯がどのような成分から構成されるか、そして、う蝕の発生メカニズムはどうなっているかなどについても学んでいきます。
目 的	この授業の目的は、生命現象を化学の目で理解できるようにすることです。このことは、栄養学、医学の基礎として不可欠です。
学 習 目 標	・ 生化学の基礎となる原子、分子、構造式について理解する。 ・ 糖質について、糖質の種類、構造、代謝、生理機能について理解する。 ・ 脂質について、構造、代謝、生理機能について理解する。 ・ タンパク質について構造、代謝、生理機能について理解する。 ・ 酵素の役割について理解する。 ・ 口腔組織を構成する結合組織の概略を理解する。 ・ 歯の構成成分について理解する。 ・ 唾液の成分、唾液の果たす役割について理解する。 ・ 歯の堆積物であるプラーク、歯石について理解する。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価 ・ 「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能 2 生化学・口腔生化学」 （医歯薬出版）
留 意 事 項	化学が苦手な人でもわかるように、基礎的なところから説明していきたいと思います。皆さんは、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてきてください。

授業計画：講義

回	内 容
1	化学の基礎：1 原子と分子
2	化学の基礎：2 分子量とモル濃度
3	細胞の役割
4	細胞の役割
5	生体における水
6	生体における水
7	生体構成成分と栄養素
8	生体構成成分と栄養素
9	生体構成成分と栄養素
10	生体構成成分と栄養素
11	生体における化学反応・酵素
12	生体における化学反応・酵素
13	脂質の代謝とエネルギーの生成
14	脂質の代謝とエネルギーの生成
15	タンパク質とアミノ酸の代謝
16	タンパク質とアミノ酸の代謝
17	生体における恒常性の維持
18	生体における恒常性の維持
19	結合組織、歯の構成成分
20	結合組織、歯の構成成分
21	硬組織の生化学：石灰化
22	硬組織の生化学：石灰化
23	硬組織の生化学：骨の形成と吸収
24	硬組織の生化学：骨の形成と吸収
25	唾液の生化学
26	唾液の生化学
27	プラークの生化学
28	プラークの生化学
29	生体防御機構と炎症反応
30	生体防御機構と炎症反応

3. 教養基礎

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	菅原 和美
授 業 科 目 概 要	歯科医療現場では、薬品の取り扱いに関する計算や、患者指導に用いる資料の計算が必要になる。そのために基礎的な計算方法を習得する。 また、社会人として必要な国語の基本を学び、言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。
目 的	歯科医療現場で必要となる基礎的な計算方法を習得する。 幅広い年齢層に対応できるよう正しい日本語を身につけ、社会人として必要な言語表現を習得する。
学 習 目 標	1. 基本的な四則計算ができる。 2. 単位の換算ができる。 3. 比を用いた計算ができる。 4. 濃度の計算ができる。 5. 自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。
成 績 評 価 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	自主教材
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1. 2	四則計算
3. 4	単位の換算
5. 6	比を用いた計算
7. 8	濃度の計算
9. 1 0	国語の基礎①
1 1. 1 2	国語の基礎②
1 3. 1 4	文章表現①
1 5	文章表現②

4. 解剖学・口腔解剖学

3単位（必修）

第1学年 （45時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光
授 業 科 目 概 要	教科書として全国歯科衛生士教育協会監修の歯科衛生士教本である「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）」および「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）」を用いる。 具体的には、解剖学総論、骨格系、筋系、脈管系、内臓学、神経・感覚器、内分泌の順に系統別に分けて講義する
目 的	この授業の目的は歯科医学の初学生である1年次学生に、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上で最も基礎となる人体および口腔領域の正常な形態と構造に関する基本的な知識を身につけさせることにある。
学 習 目 標	人体の正常な形態について学び、歯科衛生士として必要な解剖学および口腔解剖学の基礎知識を習得する。 ・人体の区分、方向用語等を理解する。 ・運動器系の基本構造を理解する。 ・呼吸器系の基本構造を理解する。 ・消化器系の基本構造を理解する。 ・循環器系の基本構造を理解する。 ・神経系の基本構造を理解する。 ・感覚器系の基本構造を理解する。 ・泌尿生殖器系の基本構造を理解する。 ・内分泌系の基本構造とホルモンについて理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版） 授業開始時に適宜プリント配布 【参考書】 藤田恒夫 「入門人体解剖学」 南江堂 （学内図書）
留 意 事 項	解剖学・口腔解剖学で学ぶ内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画：講義

回	内 容
1～3	解剖学総論・運動器総論
4～6	体幹体肢の骨と筋
7～9	頭顔面部の骨と筋
10～12	消化器系総論・口腔・咽頭・食道
13～15	胃・腸管・肝臓・膵臓
16～18	呼吸器
19～21	循環器系総論・心臓
22～24	動脈・静脈・リンパ管
25～27	中枢神経系総論・大脳・脳幹
28～30	脊髄・脊髄神経・脳神経①
31～33	脳神経②自律神経
34～36	皮膚・視覚器①
37～39	視覚器②・平衡聴覚器
40～42	泌尿器
43～45	内分泌系（ホルモン）

5. 生理学・口腔生理学

3単位（必修）

第1学年（45時間）

担 当 教 員 名	吉澤 知彦
授 業 科 目 概 要	本科目では、人間の身体機能について、生物学的観点から詳しく学ぶ。生理学では、細胞や器官、組織、代謝、神経、筋肉、循環、呼吸、消化、排泄、内分泌、生殖など生体を維持する一連の機構を学習する。口腔は、消化器官、呼吸器官、発語器官、感覚器官として機能し、歯、唾液、咀嚼、味覚など特異的な機能が存在する。これら器官として機能する機構を口腔生理学で学ぶ。
目 的	臨床歯科医学を学ぶにあたり必要な生理学・口腔生理学の知識を修得することを目的とする。口腔・顎・顔面などの諸器官の機能を健全に維持するために、また、これら諸器官の機能障害を予防・治療する上で基礎となる知識を習得する。
学 習 目 標	【一般目標】 生理学では、生命現象を理解するために、生体構成成分である細胞・組織・臓器の機能維持・恒常性維持のための機構の成り立ちを理解する。口腔生理学では、口腔を構成している組織や諸器官の役割を理解し、その機能を健全に維持するための機構についての生理学的な知識を習得する。 【到達目標】 ・細胞膜、細胞質、核、細胞内小器官の機能を説明できる。 ・体循環と肺循環について説明できる。 ・血液を構成する細胞成分・液性成分とその機能を説明できる。 ・心臓の基本的構造と収縮の仕組みを説明できる。 ・血圧を調節する仕組みを説明できる。 ・リンパ系の構造と機能を説明できる。 ・呼吸器の仕組みを理解する。換気の仕組み、肺胞でのガス交換、呼吸調節を理解する。 ・肺活量とは何か説明できる。 ・内分泌とは何か説明できる。内分泌器官とホルモンとその作用について代表的ものを説明できる。 ・受精、妊娠、乳汁分泌の仕組みを理解できる。 ・体温の調節の仕組みを理解できる。 ・消化、吸収とは何か、また、消化管の名称を説明出来る。胃、小腸、大腸の主な働きを説明できる。 ・消化液の代表的な消化酵素を説明できる。 ・排泄とは何か説明出来る。発汗の意味について理解する。排尿の仕組みについて理解する。 ・神経系の構造と機能の単位(ニューロン、シナプス、神経繊維)を説明できる。 ・興奮伝達の機序を理解できる。 ・脊髄神経、脳神経、自律神経の機能を説明できる。 ・中枢神経系の機能(反射中枢、統合作用)を理解できる。 ・感覚性伝導路、運動性伝導路を説明できる。 ・延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳の機能の代表的なものを説明できる。 ・脳波を理解できる。 ・筋肉の種類と機能を説明できる。骨格筋の収縮様式を説明できる。 ・筋の微細構造と筋収縮の仕組みを理解する。心筋の収縮の特徴を説明できる。 ・感覚の分類を理解できる。視覚、聴覚、臭覚、平衡感覚、体性・内臓感覚の仕組みを理解できる。

	・咬合に重要な役割をする歯と歯を支持する歯周組織の機能的構造を説明できる。 ・歯、歯髄、歯周組織の感覚機能を説明できる。 ・口腔粘膜の感覚を理解できる。口腔内の感覚点の特徴を説明できる。 ・味覚の神経機構の概要を理解できる。 ・味蕾のはたらきと分布を説明できる。 ・味覚の五基本味、味覚閾値を説明できる。 ・嗅覚の役割・特性について説明できる。 ・下顎位について説明できる。 ・下顎の運動の特徴について説明できる。 ・下顎の運動に関与する筋（咀嚼筋）について説明できる。 ・咀嚼筋の特性を説明できる。 ・下顎運動と顎関節内の動きを説明できる。 ・顎反射の機序を説明できる。 ・顎運動調節への役割を説明できる。 ・摂食行動を説明できる。 ・咀嚼時の神経性抑制機構を理解できる。 ・咀嚼時の下顎の動き・食物の動きを説明できる。 ・咀嚼能率について説明できる。 ・吸啜・吸指癖について説明できる。 ・嚥下と嘔吐にかかわる解剖学的構造を説明できる。 ・摂食・嚥下の流れについて説明できる。 ・嘔吐の機序、嘔吐の神経機構を説明できる。 ・発声機構の概要を理解できる。声の生成機序を理解できる。 ・言語音の形成と構音障害を説明できる。歯・口腔の病態と発音について説明できる。 ・唾液腺の解剖学的概要を説明できる。 ・唾液の分泌機構を理解できる。 ・唾液の分泌量、性状・成分と機能について説明できる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版） 配布資料

授業計画

回	内 容
1	生理学導入

2	細胞 1 : 細胞の基本的生理機能 1
3	細胞 2 : 細胞の基本的生理機能 2
4	循環 1 : 心臓の構造と機能、心臓の自動能
5	循環 2 : 心電図、血圧
6	循環 3 : 血管の機能、リンパ循環
7	呼吸 1 : 呼吸器系の構成、胸郭の構造と換気の仕組み
8	呼吸 2 : 肺気量と換気量、肺胞および組織におけるガス交換
9	呼吸 3 : 血液中の O_2 と CO_2 の運搬
1 0	内分泌 1 : 内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造と機能
1 1	内分泌 2 : ホルモンの作用機序、ホルモンの分泌調節
1 2	生殖 : 性周期、受精と妊娠、分娩と乳汁分泌、更年期 体温 : 体熱の産生、体熱の放散、体温の調節、体温の変動
1 3	消化・吸収 1 : 消化と吸収の概要、口腔での消化、胃の機能
1 4	消化・吸収 2 : 小腸の機能、大腸の機能
1 5	腎機能と排尿 : 腎臓の働き、尿の生成、尿の一般的性質、膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射）
1 6	神経系 1 : 神経細胞の興奮と伝導、脳波、高次機能
1 7	神経系 2 : 反射と随意運動、姿勢調節
1 8	筋と運動 1 : 筋の機能、運動
1 9	筋と運動 2 : 筋電図
2 0	感覚 : 感覚の性質と種類、体性感覚の特徴、感覚情報の伝達
2 1	口腔生理学導入
2 2	歯・口腔、顔面の感覚 1 : 口腔顔面領域の神経生理学
2 3	歯・口腔、顔面の感覚 2 : 口腔顔面痛
2 4	歯・口腔、顔面の感覚 3 : 口腔顔面領域の触圧覚
2 5	歯・口腔、顔面の感覚 4 : 口腔顔面領域の温度感覚ほか

2 6	歯・口腔、顔面の感覚 5 : 口腔感覚とおいしさ
2 7	味覚と嗅覚 1 : 味覚
2 8	味覚と嗅覚 2 : 嗅覚
2 9	咬合と咀嚼・吸啜 1 : 下顎位、
3 0	咬合と咀嚼・吸啜 2 : 下顎の運動
3 1	咬合と咀嚼・吸啜 3 : 顎反射
3 2	咬合と咀嚼・吸啜 4 : 摂食行動
3 3	咬合と咀嚼・吸啜 5 : 咀嚼能力
3 4	咬合と咀嚼・吸啜 6 : 吸啜
3 5	嚥下と嘔吐 1 : 嚥下 1
3 6	嚥下と嘔吐 2 : 嚥下 2
3 7	嚥下と嘔吐 3 : 嚥下 3
3 8	嚥下と嘔吐 4 : 嘔吐
3 9	発声・発語 1 : 発声機構の概要、声の生成
4 0	発声・発語 2 : 構音のメカニズム、歯・口腔の病態と構音
4 1	唾液 1 : 唾液の分泌機構 1
4 2	唾液 2 : 唾液の分泌機構 2
4 3	唾液 3 : 唾液の性状・成分と機能 1
4 4	唾液 4 : 唾液の性状・成分と機能 2
4 5	唾液 5 : 唾液と疾患

6.口腔組織発生学

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光
授 業 科 目 概 要	教科書として全国歯科衛生士教育協会監修の歯科衛生士教本である「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）」を用い、口腔組織発生学の内容について講義する。 具体的には、顔面と口腔の発生、歯の発生、歯の組織、歯周組織、顎関節について講義する。
目 的	この授業の目的は、歯科医学の初学生である 1 年次学生に、専門分野を学ぶ上で必須の顎口腔領域の発生と組織に関する基本的な知識を身につけさせることにある。
学 習 目 標	顎顔面と口腔の発生、歯および歯周組織について、歯科衛生士として必要な知識を習得する。 ・顔面および口腔の発生について理解する。 ・歯の発生について理解する。 ・歯の組織（エナメル質・象牙質・歯髄・セメント質）について理解する ・歯周組織（歯根膜・歯肉・歯槽骨）について理解する。 ・顎関節について理解する。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版） 授業開始時に適宜プリント配布
留 意 事 項	口腔組織発生学で学ぶ内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画

回	内 容
1	顔面と口腔の発生
2	歯の発生 I
3	歯の発生 II、歯の系統進化
4	エナメル質
5	象牙質・歯髄
6	セメント質
7	歯槽骨・歯肉・口腔粘膜
8	顎関節

7. 歯牙解剖学

2 単位 (必修)

第 1 学年 (30 時間)

担当教員名	藤井 誠
授業科目概要	歯の基本的構造、永久歯および乳歯の形態的特徴、歯の配列と咬合、異常歯などについて学ぶ。 また、実習では、歯のスケッチと歯型彫刻を行って、歯の立体的な形態に対する理解を深める。
目的	歯の基本的形態とそれぞれの特徴について理解し、歯科衛生士として臨床において必要となる歯牙の形態学的知識を修得する。
学習目標	正常な歯の配列と咬合がわかる。 特定の歯の立体的な形態をイメージでき、歯の鑑別ができる。 異常歯の種類を説明できる。
成績評価方法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版) 各種プリント 【参考書】 歯の解剖学 (金原出版)
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	歯の概論① 歯式、歯の用語、形態に関する名称、ミュールライターの三徴候
3、4	永久歯：中切歯、側切歯、犬歯
5、6	永久歯：第一小臼歯、第二小臼歯

7、8	永久歯：上顎第一大臼歯、第二大臼歯
9、10	永久歯：下顎第一大臼歯、第二大臼歯
11、12	乳歯：乳切歯、乳犬歯
13、14	乳歯：第一乳臼歯、第二乳臼歯
15、16	歯の配列と咬合、異常歯
17、18	実習 歯のスケッチ：上顎第一大臼歯
19、20	実習 歯型彫刻：上顎第一大臼歯
21、22	実習 歯型彫刻：上顎第一大臼歯
23、24	実習 歯のスケッチ：下顎第一大臼歯
25、26	実習 歯型彫刻：下顎第一大臼歯
27、28	実習 歯のスケッチ：上顎第一小臼歯、上顎第二小臼歯
29、30	実習 歯のスケッチ：下顎第一小臼歯、下顎第二小臼歯

8. 薬理学・口腔薬理学

2 単位（必修）

第 1 学年 （30 時間）

担当教員名	鈴木 邦明
授業科目概要	薬理学は、化学物質である薬物と生体の細胞・組織との相互作用によって生じる現象を研究する科学である。具体的には、薬物の性状、薬物が作用する部位、薬物の作用機構、薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）、中毒、医療上の応用、医療に適する製剤などについて学ぶ。 薬理学は基礎医学の一分野であるが、臨床との接点であり、薬物の臨床医学分野における応用上の指針を示す。薬理学は、対象となる臓器別に細分化されることもあり、歯科薬理学は歯内治療、歯周疾患、口腔粘膜疾患、硬組織（歯や骨）を対象とする薬理学である。
目的	歯科衛生士は歯科臨床の場において多くの薬物に関わる。薬理学・歯科薬理学では、薬物から最大の効果を引き出し、使用するための知識を身に付ける。また、薬物は、誤った使用法により、患者に対してだけでなく、使用する医療関係者に有害な作用を引き起こす危険性もある。自分の身を守るためにも、正しい薬物の取り扱いを理解する必要がある。近年は、高齢化に伴って、循環器疾患や糖尿病などの基礎疾患をもち、多くの薬物を投与されている患者が歯科を受診する機会も多い。歯科以外の治療で使われている薬に関する知識も必要であり、薬物全般に関して学ぶ。これらの知識は、服薬指導を行う上での基礎としても大切である。
学習目標	1. 歯科衛生士としての日常業務に必要な薬理学的な知識を身に付け、説明することができる。 2. 身近にある薬物に関心を持ち、新たな情報を得て知識を深める基盤を築き、理解することができる。
成績評価方法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する 以上により総合評価をして可否を判定する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教材	【プリント】 講義のガイドとして、教科書の重要事項を抜粋した講義資料を配付する。 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学」 （医歯薬出版） 【参考書】 現代歯科薬理学第 6 版（医歯薬出版）
留意事項	薬理学を理解するには、高校までに学んだ生物学や化学、さらには生化学、生理学および解剖学などの基本的な知識を必要とするので、これらの科目の理解に努めていただきたい。 講義資料としてプリントを配付するので、教科書と合わせて事前に読んでから講義を受けることが望ましい。毎回の講義の最後に、講義内容に関する小テストを行い平常点の評価に使用する。次回の講義の最初に、小テストの解答と解説を行うので、振り返りと知識の定着に活用していただきたい。

授業計画：講義

回	内 容
1	薬物の作用（1）：薬物療法の種類，薬理作用の様式，基本形式，分類
2	薬物の作用（2）：用量反応関係と薬用量の用語，薬理作用の機序
3	薬物動態（1）：生体膜通過様式，吸収，分布
4	薬物動態（2）：代謝，排泄，生物学的半減期
5	薬物の適用方法の種類と特徴：薬物の適用方法の種類，血中濃度の推移，生物学的利用能
6	薬物の作用に影響を与える要因：薬効に影響する因子，薬物の連用，併用，相互作用
7	薬物の副作用，有害作用（1）：薬物の有害作用の分類と原因，一般的副作用
8	薬物の副作用，有害作用（2），医薬品を適用する際の注意：歯科領域における副作用，副作用・有害作用の予知と回避
9	薬物の取り扱い，薬物と法律・薬物と医薬品（1）：剤形，処方せん，配合変化，薬物の保存方法，医薬品医療機器法
10	薬物と法律・薬物と医薬品（2）：日本薬局方，毒薬・劇薬の表示と保管，麻薬及び向精神薬取締法，覚せい剤取締法
11	ビタミンとホルモン：ビタミン，ホルモン
12	末梢神経系に作用する薬物（1）：アドレナリン受容体，アセチルコリン受容体，交感神経・副交感神経と神経伝達物質
13	末梢神経系に作用する薬物（2）：交感神経作動薬と遮断薬，副交感神経作動薬と遮断薬
14	中枢神経系に作用する薬物（1）：全身麻酔薬，アルコール類，催眠薬・抗不安薬，抗てんかん薬
15	中枢神経系に作用する薬物（2）：向精神薬，中枢神経興奮薬，パーキンソン病治療薬，アルツハイマー病治療薬
16	循環器系に作用する薬物：高血圧治療薬，不整脈治療薬，心不全治療薬，狭心症治療薬，脂質異常症治療薬
17	腎臓に作用する薬物，呼吸器系に作用する薬物，消化器系に作用する薬物：腎臓の機能と構造，主な利尿薬と作用機序，気管支喘息治療薬，鎮咳薬，去痰薬，消化性潰瘍治療薬，鎮痙薬
18	血液に作用する薬物：止血機構，止血薬，抗血栓薬，抗貧血薬
19	免疫と薬，悪性腫瘍と薬，代謝性疾患治療薬：免疫増強薬，免疫抑制薬，抗アレルギー薬，悪性腫瘍とは，抗悪性腫瘍薬，糖尿病治療薬，骨粗鬆症治療薬
20	炎症と薬（1）：アラキドン酸カスケード，炎症のケミカルメディエーター，ステロイド性抗炎症薬
21	炎症と薬（2），痛みと薬：非ステロイド性抗炎症薬，解熱鎮痛薬，オピオイド系鎮痛薬，非オピオイド系鎮痛薬
22	局所麻酔薬（1）：局所麻酔薬の作用機構，血管収縮薬の併用
23	局所麻酔薬（2）：局所麻酔薬の分類と化学構造，適用法
24	抗感染症薬（1）：感染症と抗感染症薬，抗感染症薬の作用機序と副作用， β -ラクタム系抗菌薬
25	抗感染症薬（2）：マクロライド系抗菌薬，テトラサイクリン系抗菌薬，ニューキノロン系抗菌薬
26	消毒に使用する薬（1）：消毒薬の作用機序，消毒薬の分類，酸化剤，ハロゲン化合物，アルコール類，アルデヒド類
27	消毒に使用する薬（2），う蝕予防薬：フェノール類，界面活性剤，HBVとHIVに対する消毒薬，フッ化物の臨床応用
28	歯内療法薬（1）：歯髄の保存に用いる薬物，根管治療に用いる薬物
29	歯内療法薬（2），歯周疾患治療薬：象牙質知覚過敏症に用いる薬物，歯周疾患治療薬，洗口薬，口臭治療に用いる薬物
30	顎・口腔粘膜疾患と薬，漢方医学と薬物：炎症性疾患，口腔粘膜疾患，顎関節症，口腔乾燥症に用いる薬物，漢方薬

9. 微生物学・口腔微生物学

2 単位（必修）

第 1 学年 （30 時間）

担 当 教 員 名	笠井 満知子
授 業 科 目 概 要	微生物の種類と構造ならびに感染様式、ならびに生体がどの様にこれらの微生物を認識、排除しているかという生体防御機構に関する知識を学ぶ。また、これらの知識を基に、歯科医療現場での種々の微生物感染防御に必要な滅菌法、消毒法、ならびに化学療法を学ぶ。更に、口腔感染症の大部分は歯垢中の常在菌による感染症であるという特殊性を理解した上で口腔感染症の発症機構ならびに予防法に関する知識を学ぶ。
目 的	微生物の種類と構造ならびに感染様式、ならびにこれらの微生物に対する生体防御機構について正しく理解し、さらに、歯垢中の常在菌による感染症であるという口腔感染症の特殊性を理解し、正常な口腔のみならず様々な口腔疾患を有する傷病者に対する診療助助や予防指導および口腔介護を安全に実施できるように役立てること。
学 習 目 標	ヒトに感染する微生物の種類、構造と感染様式、それらの病原微生物に対する生体防御機構、さらに、滅菌・消毒ならびに化学療法を理解し、感染予防対策を立案できる能力を養うために以下の項目を重点に理解する。 1. 微生物の概要と感染の様式 2. 細菌、ウイルス、真菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの性質とそれらの感染症 3. 微生物の培養ならびに観察方法 4. 化学療法ならびに滅菌消毒法 5. 口腔環境の特殊性 6. う蝕ならびに歯周病の細菌学 7. 主な病原菌とその感染症 8. 歯科に関連するウイルスとそれらの感染症 9. 生体防御機構 10. アレルギー
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・講義ごとの確認テスト、中間試験ならびに期末試験を行い、最終的にそれぞれ 10%, 45%ならびに 45%として評価し、可以上を合格とする。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 第 2 版」（医歯薬出版）
留 意 事 項	毎回の講義をしっかりと聞いてください。とくにまとめプリントの内容は重要な点をまとめているので必ず理解して覚えてください。

授業計画：講義

回	内 容
1	微生物学の概要
2	感染の成立と感染の種類
3	細菌の分類と性状
4	細菌の増殖と病原因子
5	ウイルスの構造と増殖
6	真菌の構造と増殖
7	微生物の培養、観察と検査
8、9	化学療法
10、11	消毒と滅菌
12	口腔環境と常在微生物
13	バイオフィルムとしてのプラーク
14、15	う蝕の細菌学
16、17	歯周病の細菌学
18	その他の口腔感染症
19	主な病原細菌（グラム陽性球・桿菌）
20	主な病原細菌（グラム陰性球・桿菌）
21	スピロヘータ・マイコプラズマ・クラミジア・リケッチア
22	歯科に関連するウイルスとウイルス感染症
23	歯科に関連する真菌・口腔領域の原虫・プリオン
24	免疫の種類・生体のバリア機構
25	自然免疫・抗原提示
26	獲得免疫
27	能動免疫と受動免疫・粘膜免疫
28、29	アレルギー
30	微生物学と免疫学の歴史概要

担 当 教 員 名	兼 平 孝
授 業 科 目 概 要	口腔衛生学は、歯科医学においては基礎に位置づけられる科目であるが、様々な予防処置や保健指導などの臨床的な内容、公衆歯科衛生や地域歯科保健活動などの社会歯科学的内容も多い。歯や口腔の正常な状態、機能に加えて、う蝕や歯周病、その他の口腔疾患の原因と予防法を学ぶことで、国民の口腔の健康増進を図ることを目的とする。
目 的	歯科予防処置及び歯科保健指導の基礎となる口腔衛生学を学ぶことにより、予防処置や保健指導などの実践に役立てる。
学 習 目 標	【一般目標】 口腔衛生学の内容を確実に理解し、臨床現場のみならず広く社会で実践することは歯科衛生士の基本的任務である。そのため、口腔衛生学を講義や実習から興味と意欲をもって十分学び、う蝕や歯周病等の予防的処置や保健指導、地域の歯科保健活動に参画できるようにする。 【到達目標】 ① 口腔衛生学の位置づけ、意義を理解する ② 予防や保健、健康増進の概念・意義を理解する ③ 第一次予防、第二次予防、第三次予防について理解する ④ 歯や口腔の正常像、機能を理解する ⑤ 口腔の不潔と口腔清掃について理解する ⑥ う蝕や歯周病の原因と予防法について学ぶ ⑦ 不正咬合や口臭、その他の口腔疾患の原因と予防法について学ぶ ⑧ 公衆歯科衛生の概念および地域歯科保健活動について理解する ⑨ 歯科疾患を表現する各種の指数と疫学について学ぶ ⑩ 得られたデータを統計処理する方法について学ぶ ⑪ 地域の歯科保健状況を分析する方法について学ぶ ⑫ 地域に必要な歯科保健対策を立案する方法について学ぶ ⑬ 地域の歯科保健活動を実施する方法について学ぶ
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1保健生態学」 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3保健情報統計学」 【参考図書】 口腔保健学第2版（医歯薬出版） 新予防歯科学第4版（医歯薬出版）スタンダード口腔保健学（学建書院）
留 意 事 項	

授業計画：第1学年

回	内 容
1、2	口腔衛生学の意義 ①口腔衛生学とは ②健康障害への対応の5つのステップ
3、4	歯・口の健康（1） ①歯・口の正常像
5、6	歯・口の健康（2） ②歯・口の機能 ③全身と歯・口の発育
7、8	歯・口の健康（3） ③全身と歯・口の発育 ④全身疾患との関連
9、10	口腔の不潔（1） ①口の環境 ②歯の付着物・沈着物
11、12	う蝕の予防（1） ①う蝕という病気 ②う蝕発病のしくみ
13、14	う蝕の予防（2） ③う蝕の発生要因
15、16	う蝕の予防（3） ④う蝕活動性
17、18	う蝕の予防（4） ⑤う蝕の予防法
19、20	歯周疾患の予防（1） ①歯周疾患の疫学 ②歯周疾患の症状と分類
21、22	歯周疾患の予防（2） ③発病機構
23、24	歯周疾患の予防（3） ④予防手段 ⑤歯周疾患の予防処置
25、26	不正咬合の予防 ①不正咬合の成立 その他の疾患・異常の予防（1） ①顎関節症
27、28	その他の疾患・異常の予防（2） ②口臭 ③舌痛症
29、30	その他の疾患・異常の予防（3） ④口腔癌 ⑤智歯周囲炎

1 1. 歯科衛生士概論（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	赤間 伸子
授 業 科 目 概 要	保健・医療福祉の概念および歯科疾患の概要を会得し、歯科医療の特異性と歯科衛生士の果たす役割と業務上の義務と責任について十分理解して、歯科衛生士を目指す者としての学習態度、心構えなどを養えるようにする。
目 的	歯科医療の特異性、歯科衛生士の果たす役割と、業務上の義務と責任について理解を深め、社会のニーズを敏感にキャッチし、対応する力を身につける。
学 習 目 標	【一般目標】 歯科衛生士の業務内容・歴史等と歯科衛生士を取り巻く環境について修得する。 【到達目標】 ① 歯科衛生士の定義を言える。 ② 日本における歯科衛生士の誕生と歩みの概要を説明できる。 ③ 歯科衛生士の働く場所が説明できる。 ④ 世界の歯科衛生士の現状（存在する国、制度、数等）が説明できる。 ⑤ デンタルチームと他の医療職の関りについて説明できる。 ⑥ 歯科衛生士に関する法令（歯科衛生士法・施行令・施行規則）が言える。 ⑦ 歯科衛生士の業務が説明できる。 ⑧ 医療倫理について説明できる。 ⑨ 期待される歯科衛生士像について説明できる。 ⑩ 歯科医療の特異性を説明できる。 ⑪ 歯科衛生士教育の体系について分かる。 ⑫ 自分の目指す歯科衛生士像を言える。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科衛生学総論」（医歯薬出版）
留 意 事 項	学問知識のみでなく、希望をもって歯科衛生士を目指して学習する意欲を喚起できるようにする。

授業計画：講義

回	内 容
1	1 章 歯科衛生学とは
2	2 章 歯科衛生士の歴史
3	3 章 歯科衛生活動のための理論 ①予防の概念
4	3 章 歯科衛生活動のための理論 ②歯科衛生の考え方 ― 科学的思考
5	4 章 歯科衛生過程 ①歯科衛生過程とは ②歯科衛生過程活用の利点 ③歯科衛生過程の流れ
6	4 章 歯科衛生過程 ③歯科衛生過程の流れ
7	5 章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 ①歯科衛生士と歯科衛生士法
8	5 章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 ②歯科衛生士の役割 ③関連法規
9	5 章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 ④安全管理 1. リスクマネジメント
10	5 章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 ④安全管理 2. 感染予防対策
11	6 章 歯科衛生士と医療倫理 ①倫理の必要性 ②胃の倫理と患者の権利 ③歯科衛生士と倫理
12	6 章 歯科衛生士と医療倫理 ④対象の自己決定権の尊重 ⑤インフォームド・コンセント ⑥倫理の適用
13	7 章 歯科衛生士の活動と組織 ①歯科衛生活動の現況
14	7 章 歯科衛生士の活動と組織 ②歯科衛生活動の場 ③歯科衛生士と組織
15	8 章 海外における歯科衛生士

12. 歯科臨床概論（実務教員による講義）

1単位（必修）

第1学年（15時間）

担当教員名	高嶋 美佳
授業科目概要	歯科医学の歴史・歯科基礎医学を概観し歯科医療を全体的に見る。歯科医療の特異性・医療従事者と患者さんとの関係・歯科診療のながれ・歯科疾患の概要・各診療科における治療の概要を講義する。
目的	歯科医学に携わる者としてその仕事の間である歯科臨床についての概要を知ることが目的とする。
学習目標	【一般目標】 現実の歯科医療がどのように行われ、どのような病気が存在し、どのように治療が行われていくのかを概観する。 【到達目標】 ① 世界と日本の歯科医療の歴史を学ぶ。 ② 医療と歯科医療に共通する倫理や歯科医療独特の問題を理解する。 ③ 患者との対応、小児から高齢者、有病歯科患者に至るまでの対応を考える。 ④ 歯科疾患の全容を概観する。詳細は各科の講義で行う。 ⑤ 歯科診療の概要と歯科診療のながれを理解する。 ⑥ 各診療科（保存・歯周病・補綴・小児・矯正・口腔外科）の治療の概要を理解する。それぞれの治療に於ける歯科衛生士の役割を理解する。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版（医歯薬出版）
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1	I 編 1 章 歯科診療とは 2 章 歯科診療所
2	I 編 3 章 歯科診療所における業務
3	II 編 1 章 ライフステージと歯科診療 II 編 2 章 歯科診療で行うこと 1. 診査・検査・前処置 ①パیتالサインの確認 ②画像検査
4	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 1. 診査・検査・前処置 ③歯周組織 ④痛みのコントロール
5	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 2. 小児歯科 ①小児歯科 ②先天異常への対応
6	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 2. 小児歯科 ③う蝕予防処置
7	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 3. 歯科矯正
8	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 4. 口腔外科 ①口腔外科 ②外傷の治療 ③抜歯
9	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 4. 口腔外科 ③抜歯 ④口腔粘膜疾患の処置
10	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 5. 歯科保存 ①歯科保存 ②象牙質知覚過敏症 ③歯冠部う蝕
11	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 5. 歯科保存 ④根面う蝕 ⑤歯内療法 ⑥歯のホワイトニング
12	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 6. 歯周治療
13	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 7. 歯科補綴 ①歯科補綴 ②義歯の製作
14	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 7. 歯科補綴 ②義歯の製作
15	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 8. 障害者歯科・高齢者歯科

13. 歯科保存学 I

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	渡邊 千春
授 業 科 目 概 要	歯科の二大疾患の一つである齲蝕を扱う科目であり、「保存修復学」「歯内療法学」に分けられる。 「保存修復学」では、歯の硬組織疾患と、これに対しての成形修復、鑄造修復などの各種治療法、臨床術式について説明する。 「歯内療法学」では歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその病状、これらに対する歯髄保存療法、歯内療法、外科的歯内療法、歯の漂泊などの各種治療法と臨床術式について説明する。
目 的	硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性疾患の病態とその症状を知り、各疾患に対する治療法とその内容を理解、熟知し、歯科保存治療に対する歯科衛生士の役割とチーム医療を実践するための必要な知識を習得する。
学 習 目 標	【到達目標】 ・ 歯科保存治療の対象疾患を列挙できる。 ・ 歯科保存治療における診査方法について説明できる。 ・ 歯の痛みの種類と由来を説明できる。 ・ 齲蝕の病態と形成形態、窩洞の分類と具備すべき条件を説明できる。 ・ 歯髄疾患、根尖性歯周疾患を列挙し、それぞれの病態と治療方針について説明できる。 ・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 外科的歯内療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯の変色の原因を分類、説明できる。 ・ 歯の漂白の方法について理解できる。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	あらかじめ教科書を読んで授業に臨むこと。 事前に資料の配布等があった場合は、各自予習しておくこと。

授業計画：第1学年

回	内 容
1、2	歯科保存学とは：対象となる疾患 口腔診査：基礎知識と前準備 現症
3、4	保存修復学 保存修復の適応症と禁忌症 対象となる硬組織疾患① う蝕の発生機構、う蝕の分類と名称、う蝕の発生要因
5、6	対象となる硬組織疾患② エナメル質う蝕、象牙質う蝕、根面う蝕、二次う蝕 咬耗症、摩耗症、侵蝕症、変色・着色歯、エナメル質形成不全、破折、形態異常
7、8	保存修復の材料・器具 窩洞形成と歯髄刺激
9、10	歯髄保護法
11、12	窩洞について 窩洞の分類、Blackの窩洞分類、歯面の略号と窩洞の名称 コンポジットレジン修復
13、14	セメント修復 鑄造修復
15	ラミネートベニア修復 アマルガム修復

14. 歯科補綴学Ⅰ

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	小山 拳人
授 業 科 目 概 要	補綴治療に必要な口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎を学ぶ。 クラウン、ブリッジ、有床義歯に代表される各種補綴物の構成、材料について学び、併せて補綴物が装着されている口腔の衛生指導法を習得する。 また、補綴治療に際しての診療室での治療と技工室での技工操作との関連性についても学ぶ。
目 的	歯の欠損、喪失に続いて生じる弊害を理解する。 人工物（補綴装置）を用いて口腔の諸機能及び外観を回復する過程を理解する。
学 習 目 標	口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎が理解できる。 補綴治療による形態および口腔諸機能の回復について説明できる。 回復した形態および機能を維持するために必要な口腔衛生指導を身に付ける。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：第1学年

回	内 容
1	歯科補綴治療学とは 歯科補綴治療の意義、目的 補綴装置の種類と適応
2	歯科補綴治療学とは 歯科補綴治療の意義、目的 補綴装置の種類と適応
3	歯科補綴治療の基礎知識：1 歯列の形態と位置的關係 顎口腔系の機能
4	歯科補綴治療の基礎知識：1 歯列の形態と位置的關係 顎口腔系の機能
5	歯科補綴治療の基礎知識：2 咬合とその関連事項 顎関節症
6	歯科補綴治療の基礎知識：2 咬合とその関連事項 顎関節症
7	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 分類
8	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 分類
9	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 診療ステップ
10	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 診療ステップ
11	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 診療ステップ
12	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 構成と材料
13	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 構成と材料
14	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 臨床ステップ
15	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 臨床ステップ

15. う蝕予防処置法(実務教員による講義・実習)

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	藤田 愛
授 業 科 目 概 要	・ う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術、および態度を学ぶ
目 的	・ う蝕予防を予防するために宿主の原因や検査方法について専門的知識と技術を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する ・ う蝕予防法のフッ化物、小窩裂溝填塞の専門的知識と技術を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する
学 習 目 標	・ う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を説明できる ・ う蝕と全身疾患の関連を説明できる ・ う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性、および便宜性を説明できる ・ う蝕リスク判断のために行う、う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる ・ う蝕活動性試験を実施できる ・ 対象者のう蝕活動性を評価し、う蝕予防プログラムを立案できる ・ フッ化物の使用薬剤の種類と濃度、およびその取り扱い方法を説明できる ・ フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる ・ フッ化物歯面塗布の術式を説明できる ・ フッ化物歯面塗布を実施できる ・ フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる ・ フッ化物洗口法の対象年齢と洗口方法を説明できる ・ フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる ・ 小窩裂溝填塞材の種類と特徴を説明できる ・ 小窩裂溝填塞の適応歯を説明できる ・ 小窩裂溝填塞の術式を説明できる ・ 小窩裂溝填塞を実施できる ・ 小窩裂溝填塞実施上の注意点を説明できる
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」: 90 点以上, 「優」: 80 点以上, 「良」: 70～79 点, 「可」: 60～69 点, 「不可」: 59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 (医歯薬出版)、プリント
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1	Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 3.歯周病に関連する検査
2	Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4.う蝕に関する検査
3	Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4.う蝕に関する検査
4	Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4.う蝕に関する検査
5	Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4.う蝕に関する検査
6	Ⅲ編 3章⑥フッ化物の応用 1.フッ化物局所応用によるう蝕予防法 2.フッ化物歯面塗布
7	Ⅲ編 3章⑥フッ化物の応用 2.フッ化物歯面塗布
8	Ⅲ編 3章⑥フッ化物の応用 2.フッ化物歯面塗布
9	Ⅲ編 3章⑥フッ化物の応用 2.フッ化物歯面塗布
10	Ⅲ編 3章⑥フッ化物の応用 3.フッ化物洗口
11	Ⅲ編 3章⑥フッ化物の応用 5.フッ化物の毒性と急性中毒への対応
12	Ⅲ編 3章④小窩裂溝填塞法
13	Ⅲ編 3章④小窩裂溝填塞法
14	Ⅲ編 3章④小窩裂溝填塞法
15	まとめ

16. 歯科予防処置論Ⅰ（実務教員による講義）

1単位（必修）

第1学年（15時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希
授 業 科 目 概 要	歯科の二大疾患である「う蝕」や「歯周病」についての理解を深め、口腔保健を向上させるために必要な予防処置の基本知識、技能、術式、および態度について総合的に学習する。
目 的	歯科疾患を予防し、人々の歯・口腔内の健康を維持・増進させるために、歯科予防処置に必要な知識・技術、および態度を習得する。
学 習 目 標	①歯科医療で頻用する専門用語について理解できる。 ②正常な歯・歯周組織と口腔の機能について概説できる。 ③う蝕の原因、進行と予防について概説できる。 ④歯周病の原因、進行と予防について概説できる。 ⑤歯面の付着物（歯垢、歯石など）について概説できる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版） プリント
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	序説 歯科予防処置とは 基本的な歯科用語、歯牙の本数（永久歯・乳歯）
2	歯牙の名称（永久歯・乳歯）
3	歯番について（ジグモンディー方式）
4	歯番について（F D I 方式）
5	歯周組織について 歯牙、歯肉の正常像 歯肉炎、歯周炎について
6	歯垢、歯石について う蝕の進行について
7	鎌型スケーラーについて 適正角度について、把持・固定について 基本操作について
8	予防的歯石除去計画の立て方 歯石除去の手順まとめ

17. 歯科予防処置実習Ⅰ（実務教員による講義・実習）

1 単位（必修）

第1学年 （30時間）

担 当 教 員 名	高嶋 美佳
授 業 科 目 概 要	歯周病予防・治療における歯石除去技術を成熟するため、歯周病の基礎知識、必要器材・機械とその取り扱い、歯石除去技術の基本を習得させる。
目 的	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。
学 習 目 標	① 歯科予防処置の定義と内容を説明できる。 ② インストルメントの取り扱い、管理ができる。 ③ 手用スクレーラーの種類と特徴が説明できる。 ④ 鎌型スクレーラーの基本操作ができる。 ⑤ マネキン上での鎌型スクレーラーによる前歯部の歯石除去ができる。 ⑥ 歯面研磨用器具・器材の使用法が説明できる。 ⑦ マネキン上での歯面研磨ができる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版） プリント配布
留 意 事 項	

授業計画：第1学年

回	内 容
1	マネキン操作について ホームポジション、マキシラアングル、ヘッドローテーション
2～6	訓練用石膏棒で基本操作実習
7～16	歯石除去 マネキン実習（上顎前歯部）
17～24	歯石除去 マネキン実習（下顎前歯部）
25	歯石除去 マネキン実習 復習
26	歯面研磨 研磨用具、研磨剤について
27、28	歯面研磨 マネキン実習
29	試験対策
30	試験対策

18. 歯科保健指導論Ⅰ（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	菅原 和美
授 業 科 目 概 要	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するための基本となる知識を学ぶ
目 的	・ 歯科保健指導について基礎学問的な領域を理解する ・ 歯科保健指導における専門的な知識、技術および態度を習得する
学 習 目 標	・ 歯科保健指導の意義と特性を説明できる ・ 口腔の構造と機能を説明できる ・ 咀嚼の働きを説明できる ・ 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2 版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1	歯科保健指導の必要性・定義 歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ
2	歯科保健指導の概要 健康の概念
3	口腔の基礎知識 口腔の機能
4	口腔の機能
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・妊産婦期
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・妊産婦期
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・乳児期
8	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・乳児期
9	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・学齢期
10	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・学齢期
11	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・青年期
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・成人期
13	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・成人期
14	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・老年期
15	まとめ

19. 歯科保健指導実習Ⅰ（実務教員による講義・実習）

1 単位（必修）

第1学年 （30時間）

担 当 教 員 名	赤間 伸子
授 業 科 目 概 要	人々の歯・口腔の健康を維持・増進するためにプロフェッショナル・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を学ぶ
目 的	口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する
学 習 目 標	・歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる ・口腔衛生管理に関する清掃器具を説明できる ・各種ブラッシング法を実演できる ・歯磨剤・洗口剤の特徴を説明できる ・口腔清掃状態の測定ができ、指数化できる(PCR)
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上，「優」：80点以上，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 （医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3保健情報統計学」（医歯薬出版）

授業計画

回	内 容
1～3	歯科保健指導とは 歯科保健指導の基礎 ・ 歯、口腔の正常像と異常像の理解
4～6	口腔の器質的問題の把握 ・ 歯、口腔の汚れの状態の観察と初期病変の理解
7～9	相互実習 口腔内観察実習（歯、歯肉、舌、口腔粘膜、唾液、歯面の付着物・沈着物）
10～12	口腔清掃法 ・ 各種ブラッシング法
13～15	口腔清掃法 ・ 各種ブラッシング法
16～18	口腔清掃法 ・ 各種ブラッシング法
19～24	歯磨剤・洗口剤 ・ 種類、使用方法 実習
25～27	歯垢染色剤 ・ 種類、使用方法、特徴 プラークの菌数 ・ P C R
28～30	相互実習 染め出し、口腔清掃

20. 歯科診療補助論Ⅰ（実務教員による講義）

1単位（必修）

第1学年（15時間）

担 当 教 員 名	中村 亜希子
授 業 科 目 概 要	歯科診療補助を行うにあたり、歯科診療における基礎知識を持ち、理解させる。
目 的	歯科診療の補助と介助の違いについて理解できる。 感染予防のための滅菌・消毒の重要性を理解し実践できる。 歯科診療における基礎知識を身に付け実践できる。
学 習 目 標	・ 歯科診療補助と介助の違いについて説明できる ・ 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる ・ 1次救命処置について理解できる ・ 感染防止の重要性を説明できる ・ 滅菌と消毒の違いについて説明できる ・ 医療廃棄物の種類とバイオハザードマークについて説明できる ・ 清潔域・不潔域の区別ができる ・ 歯科診療における基礎知識を持ち、理解できる。 ・ 歯科診療室の基礎知識を理解でき、説明できる。 ・ 歯科診療室における受診の流れを説明できる ・ 全身疾患の特徴とその対応について理解し説明することができる。
成 績 評 価 方 法	・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1	歯科診療補助とは
2～3	医療安全
4～6	感染予防 ・歯科医療における感染防止対策 ・医療従事者としての対応 ・診療室、診療機器の感染防護 ・清潔域と不潔域 ・手指消毒
7～9	滅菌と消毒 ・滅菌と消毒の分類 ・薬液消毒法 ・器材別滅菌・消毒法
10	医療廃棄物の取り扱い ・医療廃棄物の種類 バイオハザードマーク
11 12	歯科診療における基礎知識 ・歯科診療室の基礎知識 ・歯科診療室における受診の流れ ・特別な配慮が必要な患者対応
13～15	歯科衛生士がかかわる医科疾患患者 主な全身疾患とその対応 ・代謝・内分泌系 ・消化器疾患 ・循環器疾患 ・血液疾患 ・呼吸器疾患 ・免疫・膠原病 ・感染症 等

21. 歯科診療補助実習Ⅰ（実務教員による講義・実習）

2単位（必修）

第1学年（60時間）

担 当 教 員 名	中村 亜希子
授 業 科 目 概 要	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を学ぶ
目 的	・専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する ・歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用方法を習得する
学 習 目 標	・歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを説明できる ・歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる ・フォーハンドシステムの基本動作ができる ・診療に応じたバキューム操作ができる ・消毒薬、各種滅菌器械・器具の準備ができる ・消毒薬、各種滅菌器械・器具の操作・取り扱いができる ・模型用材料の種類と基本的性質を説明できる ・模型用材料の取り扱いができる ・合着・接着材・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる ・各種合着・接着材・仮着用材料の取り扱いができる ・印象材の種類と基本的性質を説明できる ・印象材を練和できる ・仮封材の種類と基本的性質を説明できる ・仮封材の取り扱いができる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」 （医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科機器」 （医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科材料」 （医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」 （医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	手指消毒、グローブ装着と着脱
2～4	ファントムのセッティング方法 (2F 実習室)
5～7	実習室の使用法 相互実習の手引き・ユニットの説明①
8～10	実習室の使用法 相互実習の手引き・ユニットの説明②
11～13	実習室の使用法 相互実習の手引き・ユニットの説明③
14～16	歯科診療補助基本 1 患者誘導、ポジション・姿勢・ライティング実習
17～19	歯科診療補助基本 2 バキューム実習 スリーウェイシリンジ操作
20～22	歯科診療補助基本 2 バキューム実習 スリーウェイシリンジ操作
23～25	歯科診療補助基本 2 バキューム実習 スリーウェイシリンジ操作
26～28	歯科材料実習 (衛生材料) 綿花材の種類と取り扱い、ブローチ綿栓の取り扱い
29～31	歯科材料実習 (石膏) 普通石膏の取り扱い
32～34	歯科材料実習 (石膏) 石膏棒の作製
35～37	歯科材料実習 (合着材・仮着材 1) 合着材・仮着材の取り扱い
38～40	歯科材料実習 (合着材・仮着材 2) 合着材・仮着材の取り扱い
41～43	歯科材料実習 (印象材) 各種印象材の取り扱い
44～46	歯科材料実習 (印象材) 印象採得法 1 綿栓
47～49	歯科材料実習 (印象材) 印象採得法 2 綿栓
50～52	歯科材料実習 (印象材) 印象採得法 3 綿栓
53～54	歯科材料実習 (印象材) 印象採得法 4 綿栓
55～57	歯科材料実習 (印象材) 印象採得法 5 綿栓
58～60	まとめ

2.2. 臨地実習・臨床実習Ⅰ（実務教員による実習）

4単位（必修）

第1学年

（180時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 赤間 伸子
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士とは歯科診療所の中でどのような役割を担っているか。医療人の一員として、歯科衛生士はどのようにあるべきか、実際に働いている歯科衛生士を見て、自分になりたい歯科衛生士像を考える。
目 的	臨床の現場を見て医療人とはどうあるべきかを認識させる。
学 習 目 標	・スタッフと協働し、連携のとれた対象者へのサービスができる ・プライバシーを配慮した態度で応対できる ・対象者の守秘義務を遵守できる ・診療室のルールを理解した行動ができる ・医療安全管理に配慮した行動ができる ・感染予防対策に応じた行動ができる
成 績 評 価 方 法	・施設評価 ・臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 ・出席状況 ・提出物 以上により総合評価を行い可否判定する
教 材	【教科書】 ・新人歯科衛生士・デンタルスタッフ ポケットマニュアル 第2版 ・これまでに使用したすべての教科書、プリント
留 意 事 項	実習に臨む心構えをきちんともたせ礼儀作法や身だしなみに注意させる。 注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第1 学年

回	内 容
1	歯科診療所 見学実習：1
2	歯科診療所 見学実習：2
3	歯科診療所 見学実習：3
4	歯科診療所 見学実習：4
5	歯科診療所 見学実習：5
6	歯科診療所 見学実習：6
7	歯科診療所 見学実習：7
8	歯科診療所 見学実習：8
9	歯科診療所 見学実習：9
10	歯科診療所 見学実習：10
11	歯科診療所 見学実習：11
12	歯科診療所 見学実習：12
13	歯科診療所 見学実習：13
14	歯科診療所 見学実習：14
15	歯科診療所 見学実習：15

シラバス

2025年度 夜間部2年



学校法人 札幌青葉学園

★ 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
	歯科衛生士学校教育課程	P2
	授業実施計画表	P3
1	栄養学	P4
2	心理学	P6
3	英語	P8
4	情報処理	P10
5	接遇作法	P12
6	病理学・口腔病理学	P14
7	口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅱ	P16
8	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	P18
9	歯科保存学Ⅱ	P20
10	歯科補綴学Ⅱ	P22
11	歯周治療学	P24
12	口腔外科学	P26
13	矯正歯科学	P28
14	歯科予防処置論Ⅱ	P30
15	歯科予防処置実習Ⅱ	P32
16	歯科保健指導論Ⅱ	P34
17	歯科保健指導実習Ⅱ	P36
18	歯科診療補助論Ⅱ	P38
19	歯科放射線学	P40
20	歯科診療補助実習Ⅱ	P42
21	臨地実習・臨床実習Ⅱ	P44
22	医療情報処理	P46

教育課程 夜間部									
分野	教育内容	基準 単位数	開講 単位数	科目名称	単位数	学年別授業時間数			年間授業 時間数
						1	2	3	
基礎 分野	科学的思考の基礎	10	10	生物学・組織発生学	2	30			30
	人間と生活			生化学	2	30			30
				教養基礎	1	15			15
				栄養学	1		15		15
				心理学	1		15		15
				英語	1		15		15
				情報処理	1		15		15
				接遇作法	1		15		15
小計	10	10		10	75	75	0	150	
専門 基礎 分野	人体の構造と機能	15	15	解剖学・口腔解剖学	3	45			45
	歯・口腔の構造と機能			生理学・口腔生理学	3	45			45
				口腔組織発生学	1	15			15
				歯牙解剖学	2	30			30
	疾病の成り立ちと回復の促進			薬理学・口腔薬理学	2	30			30
				微生物学・口腔微生物学	2	30			30
				病理学・口腔病理学	2		30		30
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	7	7	口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅰ	2	30			30
				口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅱ	1		15		15
				衛生学・公衆衛生学Ⅰ	1		15		15
				衛生学・公衆衛生学Ⅱ	1			15	15
				衛生行政・社会福祉	2			30	30
	小計	22	22		22	225	60	45	330
専門 分野	歯科衛生士概論	2	2	歯科衛生士概論	1	15			15
	臨床歯科医学	8	9	歯科臨床概論	1	15			15
				歯科保存学Ⅰ	1	15			15
				歯科保存学Ⅱ	1		15		15
				歯科補綴学Ⅰ	1	15			15
				歯科補綴学Ⅱ	1		15		15
				歯周治療学	1		20		20
				口腔外科学	1		20		20
				矯正歯科学	1		20		20
				小児歯科学	1			20	20
	障害者歯科・高齢者歯科	1			20	20			
	歯科予防処置論	8	8	う蝕予防処置法	1	15			15
				歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15
				歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15
				歯科予防処置実習Ⅰ	1	30			30
				歯科予防処置実習Ⅱ	2		60		60
				歯科予防処置実習Ⅲ	2			60	60
	歯科保健指導論	7	7	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15
				歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15
				歯科保健指導実習Ⅰ	1	30			30
				歯科保健指導実習Ⅱ	2		60		60
				歯科保健指導実習Ⅲ	1			30	30
				摂食機能訓練法	1			15	15
	歯科診療補助論	9	9	歯科診療補助論Ⅰ	1	15			15
				歯科診療補助論Ⅱ	1		15		15
				歯科放射線学	1		15		15
				臨床検査法	1			15	15
				歯科診療補助実習Ⅰ	2	60			60
歯科診療補助実習Ⅱ				2		60		60	
歯科診療補助実習Ⅲ				1			30	30	
臨地実習・臨床実習	20	20	臨地実習・臨床実習Ⅰ	4	180			180	
			臨地実習・臨床実習Ⅱ	9		405		405	
			臨地実習・臨床実習Ⅲ	7			315	315	
小計	54	55		55	420	735	505	1660	
選択必修 分野	7単位以上を選択	7	9	医療情報処理	1		15		15
				チームケア	1			15	15
				総合学習Ⅰ	1			15	15
				総合学習Ⅱ	2			30	30
				総合学習Ⅲ	2			30	30
	小計	7	9		9	0	15	120	135
合計	93	96		96	720	885	670	2275	
必修科目単位数(時間数)					87	720	870	550	2140
選択科目単位数(時間数)					9	0	15	120	135
選択科目のうち卒業に必要な単位数(時間数)					7	0	105		105
※必要に応じて「特別講義」を実施する。									
単位について 講義：1単位15～20時間 基礎実習：1単位30時間 臨地・臨床実習：1単位45時間									

授 業 実 施 計 画 表(夜間部)

科目 学則で定める科目名称	区分	授業 形式	学則等規定		第2学年												
			単位数	時数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
心理学	必修	講義	1	15													
英語	必修	講義	1	15													
情報処理	必修	講義	1	15													
病理学・口腔病理学	必修	講義	2	30													
衛生学・公衆衛生学Ⅰ	必修	講義	1	15													
口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅱ	必修	講義	1	15													
歯科保存学Ⅱ	必修	講義	1	15													
歯周治療学	必修	講義	1	20													
歯科補綴学Ⅱ	必修	講義	1	15													
口腔外科学	必修	講義	1	20													
矯正歯科学	必修	講義	1	20													
歯科予防処置論Ⅱ	必修	講義	1	15													
歯科予防処置実習Ⅱ	必修	実習	2	60													
歯科保健指導論Ⅱ	必修	講義	1	15													
歯科保健指導実習Ⅱ	必修	実習	2	60													
栄養学	必修	講義	1	15													
歯科診療補助論Ⅱ	必修	講義	1	15													
歯科放射線学	必修	講義	1	15													
歯科診療補助実習Ⅱ	必修	実習	2	60													
臨地実習・臨床実習Ⅱ	必修	実習	9	405													
接遇作法	必修	講義	1	15													
医療情報処理	選択 必修	講義	1	15													
			34	885													

1. 栄養学

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	加藤 幾子
授 業 科 目 概 要	日本人の食事摂取基準の意義を理解し、各栄養素の消化・吸収・代謝と栄養的な特徴を理解する。 又正しい食生活の意義を理解し歯科臨床現場における栄養指導法を学ぶ
目 的	対象者がこれまでの食生活上の問題点を自覚し、積極的かつ自発的にそれを改善すべく指導できるようにする。
学 習 目 標	歯科保健指導の一環として食生活の改善が必要とされる対象者に対し栄養学の知識をもとにカウンセリングを行い 対象者又は家族が問題点を理解し改善することができるよう、個人の食生活の把握・分析・的確な指導目標を立てて サポートすることができる。又自らの食生活の改善点も理解し、正しい食生活をおくることができる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および小テスト、学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90 点以上,「優」:80 点以上,「良」:70～79 点,「可」:60～69 点,「不可」:59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能 3 栄養学」（医歯薬出版） 適時資料配布
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1	Ⅲ編 栄養の基礎 1 章 栄養の基礎知識 ①食生活と栄養 ②栄養素の消化・吸収
2	Ⅲ編 栄養の基礎 3 章 糖質 ①種類 ②栄養的意味 ③消化吸収
3	Ⅲ編 栄養の基礎 3 章 タンパク質 ①種類 ②栄養的意味 ③消化吸収 ④タンパク質過剰と不足
4	Ⅲ編 栄養の基礎 3 章 脂質 ①種類 ②栄養的意味 ③消化吸収
5	Ⅲ編 栄養の基礎 3 章 ビタミン ①種類 ②栄養的意味 ③ビタミンの過剰と不足
6	Ⅲ編 栄養の基礎 3 章 無機質 ①種類 ②栄養的意味 ③無機質の過剰と不足
7	Ⅲ編 栄養の基礎 3 章 水・食物繊維 ①種類 ②栄養的意味 ③必要量と給源

回	内 容
8	Ⅲ編 栄養の基礎 2 章 食事摂取基準 ①エネルギー必要量 ②基礎代謝 ③ 日本人の食事摂取基準
9	Ⅳ編 食生活と食品 1 章 食生活と健康 ①国民の健康と栄養の現状 ②望ましい食生活 国民健康・栄養調査、健康日本 21
10	Ⅳ編 食生活と食品 1 章 食生活と健康 ②望ましい食生活 。食事バランスガイド
11	Ⅳ編 食生活と食品 1 章 食生活と健康 ②望ましい食生活 特別用途食品制度、食事環境、食事計画
12	Ⅳ編 食生活と食品 1 章 食生活と健康 ③ライフステージ別の栄養と調理 1、成長期における栄養と調理の特性
13	Ⅳ編 食生活と食品 1 章 食生活と健康 ③ライフステージ別の栄養と調理 2、成人期における栄養と調理の特性 3、高齢期における栄養と調理の特性
14	Ⅳ編 食生活と食品 2 章 食べ物と健康 ①食品の成分と分類 ②食べ物の物性
15	まとめ 栄養学を学び自身の食生活を考察する

2. 心理学

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	後藤 聡
授 業 科 目 概 要	心理学の分野は多岐にわたっている。その中から、本授業では人間関係や社会との関わりについての内容を扱う。日常の人間関係や社会との関わりで生じる心理現象、カウンセリングという人間関係における話の聴き方について論じる。毎回異なったテーマを設け、理論、具体的事例、科学的根拠となる実証的研究成果などを含めて、アクティビティや発問などを取り入れながら授業を展開する。
目 的	医療スタッフや患者との対人関係を円滑にするための技法を身につける。
学 習 目 標	医療の場では人間関係が不可欠である。その対象となる人間と良好な関係を形成し、維持するためには、相手を理解することだけでは不十分である。人間関係の場面や社会から生じる自分の心理状況、話の聴き方と話し方が相手に対してどのように影響するのかを知り、必要に応じて自分を望ましい方向へ調整することも必要である。以上を考慮して本講義での目標を以下とする。 ・ 日常の人間関係や社会の中で生じる心理現象について理解する。 ・ 人間関係において自分に生じる心の状態に気づく。 ・ 医療の対象である人間の理解に役立てる。 ・ 患者との良好な関係を形成、維持するため、授業内容を役立てられるように応用的な思考を経験する。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 70% 提出物 30% 受講態度（私語や講義と関係ない行為を行った場合は減点することがある。） ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	自作のプリント
留 意 事 項	・ 講義内容に関する疑問がある場合は積極的に質問をすること。 ・ 私語や講義と関係のない行為を厳禁とする。

回	内 容
1	ガイダンス 思考を柔軟にするトレーニング
2	テーマ：同調行動と集団的無知
3	テーマ：自己呈示
4	テーマ：自己呈示
5	テーマ：ステレオタイプと偏見
6	テーマ：ステレオタイプと偏見
7	テーマ：対人認知
8	テーマ：対人認知
9	テーマ：社会的ジレンマ
10	テーマ：社会的ジレンマ
11	テーマ：社会的現実
12	テーマ：社会的現実
13	テーマ：カウンセリングの視点による対話の基本的態度
14	テーマ：カウンセリングの視点による対話の基本的態度
15	テーマ：カウンセリングの視点による対話の基本的態度

3. 英語

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	山中 未央
授 業 科 目 概 要	高等学校までに学習した英語力をもとにして、歯科関連の文章を読む能力、語彙への理解力、応用力及び歯科衛生士として必要な英語コミュニケーション能力を育成する。
目 的	日常的にとりかわされている基礎会話を身につける。さらに常用英語の読み、書き、聴きを習得させ、歯科臨床への応用力を育成する。
学 習 目 標	〈一般目標〉 基礎的な英会話ができるように、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意識を育成する。 〈行動目標〉 【リスニング】 簡単な英会話を聞き取れるようになる。 【スピーキング】 正しい発音で英会話できる。 正しいイントネーションで英会話できる。 正しいリズムで英会話できる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・講義終了後に筆記試験を行う ・講義に対する取り組み方・学習態度も評価の対象となる ・「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	自主教材
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	ガイダンス、挨拶、自己紹介
3、4	演習・1 基礎単語の確認 場面の説明、状況の説明
5、6	演習・2 過去の出来事・状況の言い方 予定の言い方
7、8	演習・3 情報を伝える 日常生活について
9、10	演習・4 会話練習
11、12	演習・5 プレゼンテーション
13、14	演習・6 プレゼンテーション
15	まとめ

4. 情報処理(実務教員による講義)

1 単位 (必修)

第2学年 (15時間)

担 当 教 員 名	藤田 愛
授 業 科 目 概 要	コンピュータ社会の現代では歯科衛生士であってもコンピュータ操作は必須であり、その中でもW o r d と E x c e l は使いこなしたいソフトである。 本講義ではコンピュータの基礎的知識からW o r d、E x c e l の操作までを行う。
目 的	I T 社会に対応する力を育成することを目的とする。
学 習 目 標	1. ブラインドタッチでW o r d、E x c e l が使える。 2. 文書やチラシが作成できる。 3. データベースの作成ができる。 4. 統計処理ができる。 5. データに適したグラフを選択できる。 6. ウィンドウの名称、活用法が理解できる。 7. P o w e r p o i n t を使ってスライドを作成することができる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」: 90 点以上, 「優」: 80 点以上, 「良」: 70～79 点, 「可」: 60～69 点, 「不可」: 59 点以下
教 材	適宜プリント配付
留 意 事 項	常にホームポジションを心がけること。

授業計画：

回	内 容
1	コンピュータの基礎知識 パソコンの起動、終了 ファイルとフォルダ OSについて W o r d で出来ること マウスの基本操作 文字の入力 ウィンドウの画面の基本操作 ホームポジション
2	W o r d 演習①
3	W o r d 演習②
4	W o r d 演習③
5	W o r d 演習④
6	E x c e l 演習①
7	E x c e l 演習②
8	E x c e l 演習③
9	E x c e l 演習④
10	P o w e r p o i n t 演習①
11	P o w e r p o i n t 演習②
12	P o w e r p o i n t 演習③
13	P o w e r p o i n t 演習④
14	P o w e r p o i n t 演習⑤
15	まとめ

5. 接遇作法

1 単位（選択必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	田中 みどり
授 業 科 目 概 要	礼儀を押さえる事が、いかに重要か理解を深め、自己トレーニング法を導入し授業後も自分磨きができるよう個人指導強化の授業。 好印象を与える要素を理解し、実践で表現できるように指導。 「ケアコミュニケーション」のスキルアップをはかる。
目 的	接遇 イコール ケアである事を理解し、患者様に対してだけでなく人とのコミュニケーションを大切にできる学生を育成する。 社会人としての心得を押さえ、自信をもって社会に羽ばたける学生を育てる。
学 習 目 標	接遇を頭の理解にとどまらず、具体的に表現するテクニックを体得する
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90 点以上,「優」:80 点以上,「良」:70～79 点,「可」:60～69 点,「不可」:59 点以下
教 材	特になし（プリント配布）
留 意 事 項	必ず実技を伴うこと。

授業計画：

回	内 容
1、2	医療従事者としての接遇とは 第一印象の重要性（セルフチェック） 患者様への好感度の高い接し方
3	立ち居振る舞い 声の演出（呼吸法・発声法・他）
4、5	言葉遣い 敬語・表現法 心に響く話し方
6	来客対応 患者様優先の心づかい 誘導・戸の開閉・物授受・名刺取扱・上座・お茶コーヒーの出し方 他
7、8	電話対応 電話のコミュニケーション 実践
9	クレーム対応
10、11	ケアコミュニケーション 1
12	ケアコミュニケーション 2
13、14	授業総括 演習 ロールプレー
15	まとめ

6. 病理学・口腔病理学

2単位（必修）

第2学年（30時間）

担 当 教 員 名	進藤 正信
授 業 科 目 概 要	病理学は疾患の病態を解明する学問です。病態とは、疾患の原因、経過、転帰であり、その解明手法は機能的および形態学的検索に基礎をおいていますが、分子生物学的方法（遺伝子など）も取り入れられ、多岐に及んでいます。授業において、病理学総論では、代謝障害、病変の修復、遺伝子異常、循環障害、炎症、腫瘍などと分類された疾患の概要を学びます。口腔病理学では、口腔に特異的な疾患の病態および全身疾患が口腔領域へ発現する際の病態の概念を学びます。
目 的	主な疾患の発生・経過・予後について学び、さらに歯科衛生士として必要な口腔に特異的な疾患および全身疾患が口腔領域へ発現する際の病態の概要を理解する。さらに医療行為（処置）による病変の治癒経過ならびに副作用について概要を理解する。
学 習 目 標	【一般概要】 ・ものの見方と考え方および見方の心理を理解し、ヒトの病変への対応に反映させる。 ・機能の変化は形態の変化に現れ、形態の変化は機能の変化をもたらすことを理解する。 【病理学総論】 ・細胞と組織の形態学的変化、機能的変化を理解する。 ・病気の原因について、内因と外因の代表的なものについては概要を説明できる。 ・遺伝、染色体、遺伝子、DNA、RNA の概要を説明できる。代表的な遺伝性疾患を理解する。 ・代謝疾患を理解し、その代表的な疾患について説明できる。 ・細胞や組織が傷害を受けた時の変化とその治癒過程を説明出来る。 ・循環障害を理解し、その代表的疾患について説明できる。 ・炎症を理解し、関与する細胞やその代表的疾患について説明できる。 ・免疫とは何か、アレルギーや代表的免疫疾患について説明できる。 ・奇形とは何か、原因を理解する。 ・腫瘍とは何か、原因、発生過程、悪性腫瘍（がん）と良性腫瘍の相違を理解する。 代表的な腫瘍について説明できる。 【口腔病理学】 ・口腔粘膜創、拔牙創の治癒過程を説明できる。 ・口腔粘膜病変の代表的な疾患の概要を説明できる。 ・口腔領域の嚢胞と腫瘍の分類を理解し、代表的な嚢胞と腫瘍の概要および成り立ちを説明できる。 ・顎骨の病変、唾液腺の病変を理解し、代表的な病変を説明できる。 ・口腔領域の奇形の成り立ちを理解できる。 ・口腔組織の加齢変化を説明できる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験（単位認定試験、小試験） ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」、プリント
留 意 事 項	

授業計画：

回	内 容
1	総論 1 章 病理学序論と病因論 ：病理学とは、病態とは、病理学の歴史、医学の中の病理学の位置づけ、死とは、 ：形態と機能の関連、形態・色調の見方・考え方、視覚（色・形）の心理学、：病因論（病気の原因、内因、外因）
2	総論 2 章 遺伝性疾患と奇形 ：遺伝とは、ヒトの染色体とは、：遺伝性疾患、全身の奇形、顎口腔領域の奇形
3	総論 3 章 循環障害 1 ：循環系の概要：循環異常（充血とうっ血、出血と止血、血液凝固と血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫、ショック、DIC）
4	総論 3 章 循環障害 2 ：循環系の異常と疾患（高血圧、動脈硬化、心疾患、脳血管障害）
5	総論 4 章 代謝障害と退行性病変 ：細胞障害（変性・萎縮、壊死、アポトーシス）
6	総論 4 章 代謝障害と退行性病変 ：代謝異常（脂質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患）
7	総論 5 章 増殖と修復 ：細胞の適応（肥大、増生、化生）：再生と修復（異物処理、肉芽組織、創傷治癒）
8	総論 6 章 炎症と免疫応答異常 ：炎症（炎症の役割、炎症に関与する細胞、炎症の経過と種類）：感染症（細菌感染症、ウイルス感染症）
9	総論 6 章 炎症と免疫応答異常 ：免疫（免疫応答、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全）：移植と再生医療
10	総論 7 章 腫瘍 1 ：腫瘍の疫学、腫瘍と遺伝子異常、腫瘍の種類と性質、
11	総論 7 章 腫瘍 2 ：日本における悪性腫瘍、腫瘍を誘発する環境因子、腫瘍の治療
12	各論 7 章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 ：炎症性嚢胞と発育性嚢胞、歯源性嚢胞と非歯源性嚢胞：歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍 各論 8 章 口腔癌 ：口腔癌の疫学、口腔前癌病変、口腔扁平上皮癌
13	各論 9 章 顎骨の病変、 ：顎骨の炎症性病変、骨粗鬆症、顎骨の腫瘍様病変、顎関節症
14	各論 6 章 口腔粘膜の病変 ：退行性病変、化学的・物理的障害、原因不明粘膜疾患、感染性疾患、皮膚科的疾患
15	各論 10 章 唾液腺の病変 ：唾液腺の構造と機能、唾液腺の退行性病変、唾液腺炎、シェーグレン症候群、唾液腺腫瘍

7. 口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅱ

1 単位（必修）

第2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	兼 平 孝
授 業 科 目 概 要	口腔衛生学は、歯科医学においては基礎に位置づけられる科目であるが、様々な予防処置や保健指導などの臨床的な内容、公衆歯科衛生や地域歯科保健活動などの社会歯科学的内容も多い。歯や口腔の正常な状態、機能に加えて、う蝕や歯周病、その他の口腔疾患の原因と予防法を学ぶことで、国民の口腔の健康増進を図ることを目的とする。
目 的	歯科予防処置及び歯科保健指導の基礎となる口腔衛生学を学ぶことにより、予防処置や保健指導などの実践に役立てる。
学 習 目 標	【一般目標】 口腔衛生学の内容を確実に理解し、臨床現場のみならず広く社会で実践することは歯科衛生士の基本的任務である。そのため、口腔衛生学を講義や実習から興味と意欲をもって十分学び、う蝕や歯周病等の予防的処置や保健指導、地域の歯科保健活動に参画できるようにする。 【到達目標】 ① 口腔衛生学の位置づけ、意義を理解する ② 予防や保健、健康増進の概念・意義を理解する ③ 第一次予防、第二次予防、第三次予防について理解する ④ 歯や口腔の正常像、機能を理解する ⑤ 口腔の不潔と口腔清掃について理解する ⑥ う蝕や歯周病の原因と予防法について学ぶ ⑦ 不正咬合や口臭、その他の口腔疾患の原因と予防法について学ぶ ⑧ 公衆歯科衛生の概念および地域歯科保健活動について理解する ⑨ 歯科疾患を表現する各種の指数と疫学について学ぶ ⑩ 得られたデータを統計処理する方法について学ぶ ⑪ 地域の歯科保健状況を分析する方法について学ぶ ⑫ 地域に必要な歯科保健対策を立案する方法について学ぶ ⑬ 地域の歯科保健活動を実施する方法について学ぶ
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学」 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学」 【参考図書】 口腔保健学第2 版（医歯薬出版） 新予防歯科学第4 版（医歯薬出版） スタンダード口腔保健学（学建書院）
留 意 事 項	

授業計画：第2学年

回	内 容
1、2	地域歯科保健活動（1） ①主な活動分野 ②政策決定のための条件 ③集団検診と事後措置 ④保健教育 ⑤現場活動の場面
3、4	地域歯科保健活動（2） ⑥母子歯科保健
5、6	地域歯科保健活動（3） ⑦学校歯科保健
7、8	地域歯科保健活動（4） ⑧産業歯科保健 ⑨成人歯科保健活動
9、10	地域歯科保健活動（5） ⑩老人歯科保健 ⑪国際歯科保健
11、12	歯科疾患の疫学（1） ①疫学の基礎
13、14	歯科疾患の疫学（2） ②歯科疾患の疫学
15	歯科衛生統計 ①標本調査 ②実際の統計処置

8. 衛生学・公衆衛生学 I

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	兼平 孝
授 業 科 目 概 要	人の健康と疾病予防の概念について学ぶ 人の健康問題とそれに関わる環境について学ぶ 疫学的手法を学び、疾病・異常の予防対策について学ぶ 地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや方法について学ぶ
目 的	衛生学・公衆衛生学的な考え方や知識を活用し、集団あるいは地域社会の健康レベルを増進することを目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 ・自分と家族の健康を守る能力の向上をはかるとともに、医療人として、地域の人々の健康を守る人（職種）であるという意識の向上をはかる ・日常生活や予防の視点から、健康増進や、疾病の原因と予防について理解し、健康問題とそれに関わる要因についての理解を深めて問題解決に必要な判断力と行動力を養う ・地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや組織、その方法を習得する 【到達目標】 ・広い視野を持って、健康にかかわる社会の出来事（ニュース）に関心を持つ ・健康や病気には多くの要因に関わることを知り、その知識と理解を深める ・日常の生活習慣や予防の視点から、自分の健康に留意し、生活し、自己の健康を管理することができる ・地域保健活動に参加していく上で必要な基礎知識を習得する
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学」 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学」 【参考図書】 シンプル衛生公衆衛生学（南江堂） スタンダード衛生公衆衛生学（学建書院）
留 意 事 項	

授業計画：第2学年

回	内 容	
1、2	総論	衛生とは、歯科衛生士とは、健康の概念、予防医学の概念
3	疫学・1	疫学とは、疾病異常（健康障害）の発生要因、5W-1
4、5	疫学・2	疫学の方法論、統計資料の見方
6	人口	人口構造、少子化と高齢化、出生率、平均余命と平均寿命
7、8	環境と健康・1	環境と健康の概念、生活環境（空気、温熱環境、水など）
9	環境と健康・2	上水道と下水処理、廃棄物処理、環境保全
10、11	感染症・1	感染と発病、感染の三大要因、感染予防とその対策
12	感染症・2	おもな感染症の動向とその予防 ①
13、14	感染症・3	おもな感染症の動向とその予防 ②
15	感染症・4	おもな感染症の動向とその予防 ③

9. 歯科保存学Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	佐野 英彦
授 業 科 目 概 要	歯内療法学では歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその病状、これらに対する歯髄保存療法、歯内療法、外科的歯内療法、歯の漂泊などの各種治療法と臨床術式について説明する
目 的	歯髄疾患、根尖性疾患の病態とその症状を知り、各疾患に対する治療法とその内容を理解、熟知し、歯内療法に対する歯科衛生士の役割とチーム医療を実践するための必要な知識を習得する。
学 習 目 標	・ 歯の痛みの種類と由来を説明できる。 ・ 歯髄疾患、根尖性歯周疾患を列挙し、それぞれの病態と治療方針について説明できる。 ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 感染根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 外科的歯内療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	あらかじめ教科書を読んで授業に臨むこと。 事前に資料の配布等があった場合は、各自予習しておくこと。

授業計画：第2学年

回	内容
1、2、3	歯内療法概論 歯内療法に関する病変
4、5、6	感染根管とは 歯髄除去療法
7、8、9	根管治療 術式、材料、器具、薬剤
10、11、12	根管充填：術式、材料、器具 外科的根管治療
13、14、15	根管治療における安全対策 歯内療法における歯科衛生士の役割

10. 歯科補綴学Ⅱ

1 単位（必修）

第2学年（15時間）

担 当 教 員 名	小山 拳人
授 業 科 目 概 要	補綴治療に必要な口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎を学ぶ。 クラウン、ブリッジ、有床義歯に代表される各種補綴物の構成、材料について学び、併せて補綴物が装着されている口腔の衛生指導法を習得する。 また、補綴治療に際しての診療室での治療と技工室での技工操作との関連性についても学ぶ。
目 的	歯の欠損、喪失に続いて生じる弊害を理解する。 人工物（補綴装置）を用いて口腔の諸機能及び外観を回復する過程を理解する。
学 習 目 標	口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎が理解できる。 補綴治療による形態および口腔諸機能の回復について説明できる。 回復した形態および機能を維持するために必要な口腔衛生指導を身に付ける。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：第2学年

回	内 容
1	歯科補綴治療の臨床：3 部分床義歯 分類と構成 臨床ステップ
2	歯科補綴治療の臨床：3 部分床義歯 分類と構成 臨床ステップ
3	歯科補綴治療の臨床：3 部分床義歯 臨床ステップ
4	歯科補綴治療の臨床：3 部分床義歯 臨床ステップ
5	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 構成要素
6	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 構成要素
7	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 臨床ステップ
8	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 臨床ステップ
9	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 臨床ステップ
10	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 臨床ステップ
11	歯科補綴治療に用いられる器材とその管理
12	歯科補綴治療に用いられる器材とその管理
13	即時義歯 暫間義歯 治療義歯 オーバーデンチャー 補綴装置の補修、除去 下顎運動および咬合機能検査
14	即時義歯 暫間義歯 治療義歯 オーバーデンチャー 補綴装置の補修、除去 下顎運動および咬合機能検査
15	インプラント

11. 歯周治療学

1 単位（必修）

第2学年 （20時間）

担 当 教 員 名	金本 佑生実
授 業 科 目 概 要	歯周組織の構造と機能、歯周疾患の病態と原因、その予防と治療法について学ぶ。 歯周疾患における診査、診断、基本治療、歯周外科処置、再生治療、メンテナンス等について学習する。
目 的	歯周病の罹患率が高い現在、歯周治療は歯科衛生士としての実力がもっとも問われる分野である。予防や治療の方法を学び、その目的や理論を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	歯周治療に際し、基礎知識を理解した上で、それぞれの病態に応じた治療法を理解できるようにする。 併せて歯科衛生士の役割、予防とメンテナンスの重要性を認識する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	教科書：歯科衛生学シリーズ 「歯周病学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	関連教科である組織発生学、口腔解剖学、微生物学もしっかり学ぶこと。

授業計画：講義

回	内 容
1、2	歯周治療の基礎知識 ・歯周病の現状、歯周治療における歯科衛生士の役割 ・歯周組織の構造 ・歯周組織の機能
3、4	歯周治療の基礎知識 ・歯周疾患の病態 ・歯周疾患の原因と発症のメカニズム バイオフィルム、修飾因子、ブラキシズム ・生活習慣と全身性因子、インプラント周囲疾患
5、6	歯周治療の実際 ・歯周治療の進め方 診査、診断、治療計画の立案 インフォームドコンセント ・歯周疾患の診査と診断 問診、一般診査、X線診査

回	内 容
7、8	歯周治療の実際 ・歯周組織検査 ・咬合診査 - 模型、口腔内写真 - ブラキシズムについて ・基本治療 1 - モチベーションの方法と実際、生活習慣指導
9、10	歯周治療の実際 ・基本治療 2 - プラークコントロール、スケーリング、スケーラー、キュレットの基本操作 - ルートプレーニング、歯面研磨、知覚過敏処置
11、12	歯周治療の実際 ・咬合調整と暫間固定 ・歯周外科処置 1 - 外科的歯周治療の目的、基本手技と使用器具 - ポケット搔爬術、新付着術
13、14	歯周治療の実際 ・歯周外科処置 2 - 歯肉切除術、フラップ手術 - 歯肉歯槽粘膜外科手術、組織再生誘導法
15、16	歯周治療の実際 ・薬物療法 ・咬合性外傷に対する治療法 - 咬合調整、ナイトガード、固定法 ・矯正治療
17、18	歯周治療の実際 ・歯周治療後のメンテナンス - メンテナンスにおける歯科衛生士の役割 ・患者管理 - 病状の理解、心理状態の把握、治療後の援助
19、20	器具の消毒法 まとめ

12. 口腔外科学

1 単位（必修）

第2学年（20時間）

担当教員名	永易裕樹 原田文也
授業科目概要	口腔顎顔面領域では口腔を構成する組織に原発する疾患、また全身疾患の一症状としての疾患など多様な疾患が発症する。口腔外科では、主に手術療法の対象となる疾患の診断と治療を理解し、機能的、形態的回復を通じて、患者の全身の健康の維持や向上に寄与するための処置と手術法の基本について学習する。さらに、口腔外科診療の実際を理解し歯科衛生士としての役割を習得する。
目的	口腔外科診療において、安全かつ円滑な診療を実践するために必要な知識、態度、技能を学ぶ。
学習目標	☆口腔外科領域の疾患、および全身疾患に関連した口腔疾患の病態について症状、原因、および治療法を説明する。 ☆口腔外科手術の基本的な考え方、手術法とその術後経過について説明する。 ☆局所麻酔法、精神鎮静法、全身麻酔法について説明する。 ☆歯科処置時の偶発症および救命救急処置について説明する。 ☆周術期の口腔健康管理について説明する。 ☆口腔外科診療の実際を理解し、その診療介助について説明する。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」（医歯薬出版）
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1	・口腔外科学の概要（教科書 P2-6） ・診察と診断（教科書 P148-152）
2	・顎、口腔領域の先天異常と発育異常 - 歯の異常、軟組織の異常、唇顎口蓋裂、顎変形症（教科書 P7-25）
3	・損傷 - 歯の外傷、軟組織の損傷、骨折（教科書 P26-42）
4	・口腔粘膜疾患 - 潰瘍・紅斑・びらん・水疱・白斑を主徴とする疾患、色素沈着（教科書 P43-69）
5	・炎症 - 歯槽骨、顎骨、顎骨周囲組織の炎症、特異性炎（教科書 P70-85）
6	・嚢胞 - 歯源性嚢胞、非歯源性嚢胞、軟組織に発生する嚢胞、偽嚢胞（教科書 P86-94）

7	・腫瘍および腫瘍類似疾患 良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患（教科書 P95-108）
8	・顎関節疾患 顎関節脱臼、顎関節症、顎関節強直症、顎関節腫瘍（教科書 P109-115）
9	・唾液腺疾患 唾液腺炎、唾石症、唾液腺腫瘍、口腔乾燥症（教科書 P117-125）
10	・神経疾患 三叉神経痛、三叉神経麻痺、顔面神経麻痺、神経障害性疼痛、オーラルディスキネジア（教科書 P126-133）
11	・血液疾患 貧血、白血病、出血性素因（教科書 P134-140）
12	・口腔心身症 舌痛症、歯科治療恐怖症、非菌原性歯痛（教科書 P141-146）
13	・歯科診療で問題となる全身疾患 循環器疾患、脳血管疾患、代謝・内分泌疾患、消化器疾患、自己免疫疾患、アレルギー（教科書 P153-167）
14	・口腔外科手術総論（教科書 P169-187）
15	・口腔外科手術各論（教科書 P188-229） 高頻度手術を中心に解説
16	・歯科治療と麻酔 患者管理、局所麻酔、精神鎮静法（教科書 P232-273）
17	・歯科治療と麻酔 全身麻酔、緊急時の対応（教科書 P274-299）
18	・周術期の口腔健康管理（教科書 P302-327）
19	・社会と歯科医療 医療の質の確保、医療安全の推進（資料配布）
20	・社会と歯科医療 院内感染対策、医療コミュニケーション、チーム医療（資料配布）

13. 矯正歯科学

1単位（必修）

第2学年（20時間）

担 当 教 員 名	鈴木 悠人
授 業 科 目 概 要	成長発育 正常咬合と咬合異常 診査、診断 治療方法、治療計画
目 的	正常咬合が成立するために必要な成長発育を理解し、加えて、咬合、診断法、治療の術式および、長期にわたる治療やフォローについて理解する。
学 習 目 標	① 成長発育を説明できる。 ② 正常咬合と咬合異常を理解し説明できる ③ 不正咬合の治療の種類を理解し、内容を説明できる ④ 使用器材の名称および使用方法を説明できる ⑤ 矯正装置の名称および使用方法を説明できる ⑥ 矯正装置を用いた治療のメカニクスを説明できる ⑦ 矯正治療における診療補助の前準備、術式、使用器材、メンテナンス、注意点を説明できる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	第1章 歯科矯正学概論 第2章 成長・発育 ①
3、4	第2章 成長・発育 ②
5、6	第3章 咬合 ①
7、8	第3章 咬合 ② 第4章 口腔習癖
9、10	第5章 矯正治療の生物力学
11、12	第7章 矯正治療に使用する機材とその使い方
13、14	第8章 矯正装置
15、16	第9章 保定 第6章 矯正診断に関する知識
17、18	まとめ ①
19、20	まとめ ②

14. 歯科予防処置論Ⅱ（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第2 学年（15 時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希
授 業 科 目 概 要	歯科の二大疾患である「う蝕」や「歯周病」についての理解を深め、口腔保健を向上させるために必要な予防処置の基本知識、技能、術式、および態度について総合的に学習する。
目 的	歯科疾患を予防し、人々の歯・口腔内の健康を維持・増進させるために、歯科予防処置に必要な知識・技術、および態度を習得する。
学 習 目 標	1. キュレットの構造について理解できる 2. 使用部位に適したキュレット選択ができる 3. 様々な歯周組織検査について理解することができる 4. 超音波スケーラー・エアスケーラーについて理解できる 5. 歯面清掃に使用する器具やその操作方法について説明できる 6. シャープニングについて理解できる
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論 歯科保健指導論」（医歯薬出版） プリント
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1.2	キュレット キュレットの形状について キュレットの操作について
3.4	キュレット 部位による使用キュレットの選択
5.6	歯周組織の検査① エクスプローラー・プローブについて 歯周ポケット測定 BOP
7.8	歯周組織の検査② アタッチメントレベル 根分岐部病変 その他検査項目について
9.10	超音波スケーラー・エアスケーラー 機械による歯石除去の原理 操作方法、使用上の注意点
11.12	歯面研磨、エアフロー、PMTC 各機械の使用方法、使用上の注意点
13.14	シャープニング シャープニングの重要性 砥石の種類
15	まとめ

15. 歯科予防処置実習Ⅱ(実務教員による講義・実習)

2単位(必修)

第2学年 (60時間)

担当教員名	中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 赤間 伸子
授業科目概要	歯周病予防・治療における歯石除去技術を成熟するため、歯周病の基礎知識、必要器材・機械とその取り扱い、歯石除去技術の基本を習得させる。 マネキン上で習得した歯石除去技術を口腔内で実践し、各種器具の使用法や術前後の処置、器材の後始末、メンテナンスなどについて習得する。 人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術、および態度を学ぶ
目的	歯石除去を口腔内で実践するために、歯石除去技術の向上を図り、患者の反応を見ながら施術する習慣を身につけさせる。
学習目標	1. マネキン上でシックルスケーラー(臼歯部)の操作ができる。 2. マネキン上でキュレットの操作(前歯部)ができる。 3. 相互実習で鎌型スケーラーを使用して歯石除去ができる。 4. 相互実習で歯面研磨ができる。 5. 相互実習で歯周検査ができる。 6. 相互実習でパワースケーラーを使用して歯石除去ができる。 7. 個々の口腔内に適した方法で歯石除去できる。 8. 歯石除去後のメンテナンスができる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下
教材	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「歯周病学」(医歯薬出版)
留意事項	

授業計画：第2学年

回	内 容
1～20	模型実習：シックルスケーラー（臼歯部）
21	キュレット操作について
22～36	模型実習：キュレット（前歯部）
37～39	模型実習：プロービング、パワースケーラー、歯面研磨
40～42	相互実習：歯面研磨
43～45	相互実習：パワースケーラー
46～48	相互実習：シックルスケーラー
49～54	相互実習：プロービング、スケリング、歯面研磨、フッ化物塗布
55～60	相互実習：予防処置・保健指導（2・3年合同実習）

16. 歯科保健指導論Ⅱ(実務教員による講義)

1単位(必修)

第2学年 (15時間)

担 当 教 員 名	名古屋 理奈
授 業 科 目 概 要	対象とする人の歯科衛生ニーズにあった支援をするために、論理的に思考し、問題発見および解決するための過程を学ぶ
目 的	対象者別の指導方法について専門的知識と技術を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する
学 習 目 標	・論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる ・歯科衛生過程を概説できる ・歯科衛生アセスメントを説明できる ・歯科衛生計画を説明できる ・歯科衛生診断を説明できる ・歯科衛生介入を説明できる ・歯科衛生業務記録の意義を説明できる ・歯科衛生過程における評価を説明できる ・口腔清掃状態の測定ができ、指数化できる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90点以上,「優」:80点以上,「良」:70～79点,「可」:60～69点,「不可」:59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」(医歯薬出版)
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	Ⅲ編 1章 ①歯科衛生過程の概要
2	Ⅲ編 1章 ①歯科衛生過程の概要
3	Ⅲ編 1章 ②歯科衛生過程の各構成要素
4	Ⅲ編 1章 ②歯科衛生過程の各構成要素
5	Ⅲ編 1章 ②歯科衛生過程の各構成要素
6	Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握 9) 口臭
7	Ⅲ編 1章 歯科衛生過程実践
8	Ⅲ編 1章 歯科衛生過程実践
9	Ⅲ編 1章 歯科衛生過程実践
10	Ⅲ編 2章 口腔衛生状態の指数 (プラーク、歯石の歯数) PCR、OHI、OHI-S、PII、PHP
11	Ⅲ編 2章 口腔衛生状態の指数 (プラーク、歯石の歯数) PCR、OHI、OHI-S、PII、PHP
12	Ⅲ編 2章 口腔衛生状態の指数 (プラーク、歯石の歯数) PCR、OHI、OHI-S、PII、PHP
13	Ⅲ編 2章 歯周疾患の指数 PMA、PI、GI、GB Count、CPI、根分岐部検査の指数
14	Ⅲ編 2章 歯周疾患の指数 PMA、PI、GI、GB Count、CPI、根分岐部検査の指数
15	Ⅲ編 2章 う蝕の指標

17. 歯科保健指導実習Ⅱ(実務教員による講義・実習)

2単位(必修)

第2学年 (60時間)

担当教員名	藤田 愛 高嶋 美佳
授業科目概要	歯科保健指導論で学んだ内容を基礎として、対象別、症例別歯科保健指導の実際について示し、生涯を通じた歯科口腔管理ができる指導能力を習得させる。
目的	対象別、症例別歯科保健指導ができるようになる。 症例の中の具体的問題点を抽出して、その問題解決に適する技法を具体的に検討できるようになる。
学習目標	・口腔衛生管理に関する清掃器具を説明、実演できる ・口腔清掃の現状を把握できる ・口腔清掃用器材の種類と用途を説明できる ・ファントム模型を使用し、部位に合ったブラッシング指導をすることができる ・電動歯ブラシについて理解できる ・口腔内写真の用途を理解することができる ・口腔内カメラを操作できる ・口腔内写真から問題点を抽出できる ・保育所、幼稚園に入所する乳幼児を対象とした歯科衛生教育ができる ・指導に必要とされる媒体など作成し歯科保健指導ができる
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90点以上,「優」:80点以上,「良」:70～79点,「可」:60～69点,「不可」:59点以下
教材	【教科書】 歯科衛生士学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 歯科衛生士学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」(医歯薬出版)
留意事項	注)授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1～3	その他の清掃方法 1) デンタルフロス 2) 歯間ブラシ 3) タフトブラシ
4～6	補助清掃用具 実演
7、8	電動歯ブラシ 電動歯ブラシ、音波歯ブラシ、超音波歯ブラシ
9～11	相互実習 染め出し、口腔清掃実習
12～14	相互実習 染め出し、口腔清掃実習
15～17	口腔内写真撮影法
18～20	口腔内写真撮影法
21～23	分析のためのデータ 画像・口腔内写真について
24～26	口腔機能管理 口腔機能発達不全症、口腔機能低下症について 検査・指導について
27～29	様々な歯列に対してのブラッシング指導（ファントム模型）
30～33	様々な歯列に対してのブラッシング指導（ファントム模型）
34～36	大規模災害時の歯科保健指導
37、38	地域歯科保健活動 地域歯科保健活動 概要
39～59	地域歯科保健活動の実践 保育所、幼稚園を対象とした健康教育のための媒体作成
60	まとめ

18. 歯科診療補助論Ⅱ

1 単位（必修）

第2学年（15時間）

担 当 教 員 名	飯田 彰
授 業 科 目 概 要	歯科診療では種々の病原微生物に感染する可能性があり、歯科医療従事者は、日常臨床における院内感染防止対策に注意をはらわねばならない。そこで、微生物の特徴、感染症についての知識をもち、滅菌・消毒の重要性を理解して院内感染防止法の実際を習得させる。 有病高齢者、障害者の治療に対し万が一の事態に対する知識と技術を学ぶ。
目 的	感染予防のための滅菌・消毒の重要性を理解し、臨床の場で実践できる。 医療人として必要な救急蘇生法の知識を身につけ、歯科診療内外問わず起こりうる万が一の事態に適切に対応できる
学 習 目 標	* 微生物の種類・構造、細菌の発育条件を説明できる。 * 滅菌・消毒の定義、体系を説明できる。 * リスクアセスメント、ユニバーサルプレコーション・スタンダードプレコーションの概念を説明できる。 * 歯科医療における感染防止の重要性を説明できる。 * 診療室、診療機器の感染防護、在宅訪問歯科診療での感染予防の対応ができる。 * 物理的消毒法の作用機序と効果・特徴・注意事項を説明できる。 * 煮沸消毒、高圧蒸気滅菌、乾熱滅菌、簡易乾熱滅菌、EOG 滅菌、超音波消毒、紫外線消毒ができる。 * アルコール高圧滅菌、火炎滅菌、低温プラズマ滅菌の理論を説明できる。 * フェノール係数・消毒薬の効果影響因子を説明できる。 * 薬品濃度の意味を説明できる。 * 消毒薬の作用機序と効果・特徴・使用方法、注意事項を説明できる。 * 逆性石鹼液、クロルヘキシジン、グルタラル、次亜塩素酸ナトリウム、イルガサン DP300 の薬液を調整することができる。 * 器材別滅菌・消毒を実際に行うことができる。 * 感染症患者の器具・材料の取り扱いができる。 * 医療廃棄物・バイオハザードマークについて説明できる。 * 主な感染症(B 型肝炎・C 型肝炎、AIDS、梅毒等)の滅菌・消毒ができる。 * 手指消毒を的確に行える。 有病高齢者、障害者、あるいは健常者であっても様々なショック症状が発生する場合がある。それぞれに対して迅速な対応が出来るように学びモニターの使用法など学習する。 全身的偶発症の原因と種類及びその対処法がわかる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・講義への取り組み、学習態度、出席状況などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90 点以上,「優」:80 点以上,「良」:70～79 点,「可」:60～69 点,「不可」:59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生士学シリーズ 「歯科診療補助論」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」 (医歯薬出版) 歯科衛生士学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」 (医歯薬出版) 歯科衛生士学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 (医歯薬出版) プリント、適宜資料配布救急蘇生法実習モデル。
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1・2	感染防止 微生物の種類 滅菌・消毒の定義、体系 歯科医療における感染症の概念 リスクアセスメント、ユニバーサルプレコーション・スタンダードプレコーションの概念 歯科医療における感染防止対策 医療従事者としての対応、診療室、診療機器の感染防護、在宅訪問歯科診療での対応
3・4	滅菌・消毒法 分類 煮沸消毒、高圧蒸気滅菌、アルコール高圧蒸気滅菌、乾熱滅菌、EOG 滅菌 超音波消毒、紫外線消毒、火炎滅菌、低温プラズマ滅菌他
5・6	薬液消毒法① 消毒薬の作用機序・条件・使用上の注意事項 フェノール係数・消毒液の効果影響因子・薬品濃度 消毒用エタノール、イソプロパノール、クレゾール石鹼液他
7・8	薬液消毒法② 逆性石鹼液、ヨードチンキ、ポピオンヨード クロルヘキシジン、グルタラル、次亜塩素酸ナトリウム他、 器材別滅菌・消毒法
9・10	医療廃棄物の取り扱い 医療廃棄物の種類、バイオハザードマーク 感染症の知識 B型肝炎・C型肝炎・AIDSの知識と滅菌法 感染症患者の対応 感染症患者治療時の準備・片付けの実際 まとめ
11・12	全身的偶発症の原因と種類 バイタルサインとモニタリング
13・14	救急蘇生法（一次救命処置）
15・特1	偶発症への対応、酸素吸入、救急薬品、血管確保 緊急事態発生時の連絡方法、感染対策、特殊な事故（溺水、感電）、止血法
特2・特3	実習（一次救命処置） まとめ

19. 歯科放射線学

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担当教員名	吉田 重光
授業科目概要	教科書として全国歯科衛生士教育協会監修の歯科衛生士教本である「歯科放射線（医歯薬出版）」を用い、放射線に関する基礎知識を学んだ後、歯科用 X 線撮影装置、撮影用器材、撮影法、フィルムの現像と管理、放射線防護、ならび放射線治療などについて講義する。
目的	この授業の目的は、放射線の種類・物理的性質を理解するとともに、歯科臨床で用いられる放射線撮影装置の特徴、適切な使用法、ならびに実践的な技術を習得することにある。
学習目標	放射線を安全に使用するための知識ならびに技術を習得する。 ・放射線の種類と特徴を説明できる。 ・放射線の人体に対する作用を説明できる。 ・放射線の防護法について説明できる（放射線の人工被爆防止法&被爆許容量など）。 ・歯科臨床で用いられる各種の放射線装置の特徴を説明できる。 ・口内法 X 線撮影の種類・方法が説明できる。 ・口内法 X 線撮影の準備ができる。 ・パノラマ X 線撮影の原理が説明できる。 ・パノラマ X 線撮影の準備ができる。 ・各種フィルムの現像・フィルムの保管・整理ができる。
成績評価方法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する。 ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う。 ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教材	【教科書】 1. 歯科衛生学シリーズ「歯科放射線学 第 2 版」（医歯薬出版） 2. 授業開始時に適宜プリント配布
留意事項	授業内容を理解するために、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。 また、少なくともその週のうちに復習する習慣をつけること。

授業計画

回	内 容
1	○放射線学総論 ・放射線・放射能・放射性物質 ・放射線の種類・放射線に関する単位 ・放射線発見の歴史 ・放射線の性質 ・放射線感受性・ ○放射線障害と防護 ・放射線による影響 ・確定的影響と確率的影響・早期障害と晩発障害 ・放射線防護の三原則 ○配慮が必要な患者のX線撮影（小児・障害者・妊婦）
2	○X線撮影の原理 ・X線の発生 ・X線フィルムの構造・現像・（停止）・定着 ・デジタルX線写真 ・フィルム・画像の管理 ○口内法X線撮影 ・撮影装置 ・撮影法の違い（二等分法（インジケータ）・平行法・咬翼法・歯頸部投影法・咬合法） ・撮影の実際（頭部の位置（姿勢）・フィルムの位置づけ・フィルムの保持など）
3	○パノラマX線撮影 ・撮影装置の構造と原理（断層撮影） ・パノラマ撮影の基準面 ・撮影の実際（患者の誘導～位置づけ） ・パノラマX線写真の見方 ○CTとコーンビームCT
4	○口内法X線撮影実習 ○パノラマX線撮影実習
5	○頭部X線規格撮影 ・セファロ分析 ○顔面部の撮影法（頭部後前方向撮影法・頭部側方撮影法・Waters撮影法・頭部軸方向撮影法） ○その他の画像検査 ・造影検査・核磁気共鳴撮影法（MRI）・超音波検査（US） ・核医学検査（シンチグラフィイ・PET） ○放射線治療と口腔管理 ・放射線治療装置・放射線治療の副作用放射線治療患者の口腔管理

20. 歯科診療補助実習Ⅱ(実務教員による講義・実習)

2単位(必修)

第2学年 (60時間)

担 当 教 員 名	菅原 和美
授 業 科 目 概 要	さまざまなライフステージ・症例に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を学ぶ
目 的	・歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用方を習得する ・保存治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する ・補綴治療の補助のために必要な検査や治療手順および器材の使用法を習得する ・口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する ・エックス線撮影装置やフィルム、現像液、デジタル画像機器などの管理、保管と撮影の準備を習得する
学 習 目 標	・概形印象の採得ができる ・寒天とアルジネート印象材の特性を理解し、連合印象採得の準備と説明ができる ・隔壁法に用いる器具の操作ができる ・コンボジットレジン修復の手順を説明できる ・歯面処理材料の準備ができる ・コンボジット修復の器具や材料の準備ができる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90点以上,「優」:80点以上,「良」:70～79点,「可」:60～69点,「不可」:59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生士学シリーズ 「歯科診療補助論」(医歯薬出版) 歯科衛生士学シリーズ 「歯科材料」(医歯薬出版) 歯科衛生士学シリーズ 「歯科機器」(医歯薬出版) 歯科衛生士学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」(医歯薬出版) 歯科衛生士学シリーズ 「歯科補綴学」(医歯薬出版) 歯科衛生士学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」(医歯薬出版) 歯科衛生士学シリーズ 「歯科放射線学 第2版」(医歯薬出版) 適時資料配布
留 意 事 項	

授業計画：第2学年

回	内 容
1～3	印象材練和(連合印象)・ファントム
4～6	印象材練和(連合印象)・ファントム
7～9	印象材練和(連合印象)・ファントム
10～12	印象材練和(相互実習)
13～15	印象材練和(相互実習)
16～18	印象材練和(相互実習)・石膏注入
19～21	印象材練和(連合印象)・ファントム
22～24	印象材練和(連合印象)・ファントム
25～27	歯科保存修復法の診療補助実習
28～30	歯科保存修復法の診療補助実習
31～33	補綴歯科の診療補助実習
34～36	補綴歯科の診療補助実習
37～39	矯正治療時の診療補助
40～42	口腔外科診療補助実習
43～45	口腔外科診療補助実習
46～48	歯周外科治療法の診療補助実習
49～51	小児歯科治療時の診療補助実習
52～54	歯科診療補助総合実習 ラバーダム防湿
55～58	歯科診療補助総合実習 暫間被覆冠作製法
59～60	まとめ

2 1. 臨地実習・臨床実習Ⅱ(実務教員による実習)

担 当 教 員 名	中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 赤間 伸子
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護について臨地、臨床の場で実習する。
目 的	医療従事者としての人格を養う。 これまでに習得した知識、技術（歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護）を、臨地・臨床の場において実践できる能力を養う。
学 習 目 標	・患者や歯科医師、スタッフから信頼され好感を持たれるよう、医療人として清潔感のある身だしなみを整えることができる。 ・患者や歯科医師、スタッフと良い人間関係をつくることができるよう、正しい日本語、正しい発音で挨拶や話しができる。また、相手の人格を尊重し、いたわりの気持ちを持った態度や行動がとれる。 ・受付対応事務ができる。 ・歯科予防処置ができる。 ・年代や状況等、個々に対応した保健指導ができる。 ・予診における歯科診療補助ができる。 ・歯科保存治療時の歯科診療補助ができる。 ・歯周治療時の歯科診療補助ができる。 ・歯科補綴治療時の歯科診療補助ができる。 ・口腔外科治療時の歯科診療補助ができる。 ・X線撮影の歯科診療補助ができる。 ・高齢者とコミュニケーションをとることができる。 ・幼稚園児の発達段階がわかり、成長に合わせたコミュニケーションをとることができる。
成 績 評 価 方 法	・施設評価 ・臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 ・出席状況 ・提出物 ・総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 これまでに使用したすべての教科書、プリント
留 意 事 項	実習に臨む心構えをきちんともたせ礼儀作法や身だしなみに注意させる。 注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1	歯科診療所 臨床実習：1
2	歯科診療所 臨床実習：2
3	歯科診療所 臨床実習：3
4	歯科診療所 臨床実習：4
5	歯科診療所 臨床実習：5
6	歯科診療所 臨床実習：6
7	歯科診療所 臨床実習：7
8	歯科診療所 臨床実習：8
9	歯科診療所 臨床実習：9
10	歯科診療所 臨床実習：10
11	歯科診療所 臨床実習：11
12	歯科診療所 臨床実習：12
13	歯科診療所 臨床実習：13
14	幼稚園 臨地実習：1
15	病院歯科 臨床実習：14

担 当 教 員 名	中村 亜希子
授 業 科 目 概 要	基本的な診療におけるカルテの内容を理解し、臨床の場でスムーズに対応できる知識と技術を習得する。
目 的	日常の歯科診療で一般的に使用されている保険請求略語・基本的なカルテの内容を理解し、診療の流れと関連させることができる。
学 習 目 標	・保険請求略語について理解する ・医療保険制度の概要について理解する ・保険請求事務の概要について理解する
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90点以上,「優」:80点以上,「良」:70～79点,「可」:60～69点,「不可」:59点以下
教 材	資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	カルテの基礎知識
2	カルテ 基本診療料
3	カルテ 画像診断
4	カルテ C R①
5	カルテ C R②
6	カルテ I n①
7	カルテ I n②
8	カルテ 麻酔抜髄
9	カルテ 感染根管処置・根管治療
10	カルテ 根管充填
11	カルテ 支台築造・C r
12	カルテ B r
13	カルテ 歯周治療①
14	カルテ 歯周治療②
15	まとめ

シラバス

2025年度 夜間部3年



学校法人 札幌青葉学園

✧ 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
	歯科衛生士学校教育課程	P2
	授業実施計画表	P3
1	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	P4
2	衛生行政・社会福祉	P6
3	小児歯科学	P8
4	障害者歯科・高齢者歯科－障害者歯科	P10
5	障害者歯科・高齢者歯科－高齢者歯科	P11
6	歯科予防処置実習Ⅲ	P12
7	歯科保健指導実習Ⅲ	P14
8	摂食機能訓練法	P16
9	臨床検査法	P18
10	歯科診療補助実習Ⅲ	P20
11	臨地実習・臨床実習Ⅲ	P22
12	チームケア	P24
13	総合学習Ⅰ	P26
14	総合学習Ⅱ	P27
15	総合学習Ⅲ	P28
16	総合学習Ⅳ	P29

教育課程 夜間部									
分野	教育内容	基準 単位数	開講 単位数	科目名称	単位数	学年別授業時間数			年間授業 時間数
						1	2	3	
基礎分野	科学的思考の基礎	10	10	生物学・組織発生学	2	30			30
	生化学			2	30			30	
	教養基礎			1	15			15	
	栄養学			1		15		15	
	心理学			1		15		15	
	英語			1		15		15	
	情報処理			1		15		15	
	接遇作法			1		15		15	
小計	10	10		10	75	75	0	150	
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	15	解剖学・口腔解剖学	3	45			45
	生理学・口腔生理学			3	45			45	
	口腔組織発生学			1	15			15	
	歯牙解剖学			2	30			30	
	薬理学・口腔薬理学			2	30			30	
	微生物学・口腔微生物学			2	30			30	
	疾病の成り立ちと回復の促進	7	7	病理学・口腔病理学	2		30		30
	口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅰ			2	30			30	
	口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅱ			1		15		15	
	衛生学・公衆衛生学Ⅰ			1		15		15	
	衛生学・公衆衛生学Ⅱ			1			15	15	
	衛生行政・社会福祉	2				30	30		
	小計	22	22		22	225	60	45	330
専門分野	歯科衛生士概論	2	2	歯科衛生士概論	1	15			15
	臨床歯科医学	8	9	歯科臨床概論	1	15			15
				歯科保存学Ⅰ	1	15			15
				歯科保存学Ⅱ	1		15		15
				歯科補綴学Ⅰ	1	15			15
				歯科補綴学Ⅱ	1		15		15
				歯周治療学	1		20		20
				口腔外科学	1		20		20
				矯正歯科学	1		20		20
				小児歯科学	1			20	20
	障害者歯科・高齢者歯科	1			20	20			
	歯科予防処置論	8	8	う蝕予防処置法	1	15			15
				歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15
				歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15
				歯科予防処置実習Ⅰ	1	30			30
				歯科予防処置実習Ⅱ	2		60		60
				歯科予防処置実習Ⅲ	2			60	60
	歯科保健指導論	7	7	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15
				歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15
				歯科保健指導実習Ⅰ	1	30			30
				歯科保健指導実習Ⅱ	2		60		60
				歯科保健指導実習Ⅲ	1			30	30
				摂食機能訓練法	1			15	15
	歯科診療補助論	9	9	歯科診療補助論Ⅰ	1	15			15
				歯科診療補助論Ⅱ	1		15		15
				歯科放射線学	1		15		15
				臨床検査法	1			15	15
				歯科診療補助実習Ⅰ	2	60			60
				歯科診療補助実習Ⅱ	2		60		60
				歯科診療補助実習Ⅲ	1			30	30
	臨地実習・臨床実習	20	20	臨地実習・臨床実習Ⅰ	4	180			180
				臨地実習・臨床実習Ⅱ	9		405		405
				臨地実習・臨床実習Ⅲ	7			315	315
小計	54	55		55	420	735	505	1660	
選択必修分野	7単位以上を選択	7	9	医療情報処理	1		15		15
				チームケア	1			15	15
				総合学習Ⅰ	1			15	15
				総合学習Ⅱ	2			30	30
				総合学習Ⅲ	2			30	30
	総合学習Ⅳ	2			30	30			
小計	7	9		9	0	15	120	135	
合計	93	96		96	720	885	670	2275	
必修科目単位数(時間数)					87	720	870	550	2140
選択科目単位数(時間数)					9	0	15	120	135
選択科目のうち卒業に必要な単位数(時間数)					7	0	105		105
※必要に応じて「特別講義」を実施する。									
単位について 講義：1単位15～20時間 基礎実習：1単位30時間 臨地・臨床実習：1単位45時間									

授 業 実 施 計 画 表(夜間部)

科目	区分	授業形式	学則等規定		第3学年											
学則で定める科目名称			単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	必修	講義	1	15												
衛生行政・社会福祉	必修	講義	2	30												
小児歯科学	必修	講義	1	20												
障害者歯科・高齢者歯科	必修	講義	1	20												
歯科予防処置実習Ⅲ	必修	実習	2	60												
歯科保健指導実習Ⅲ	必修	実習	1	30												
摂食機能訓練法	選択 必修	講義	1	15												
臨床検査法	必修	講義	1	15												
歯科診療補助実習Ⅲ	必修	実習	1	30												
臨地実習・臨床実習Ⅲ	必修	実習	7	315												
チームケア	選択 必修	講義	1	15												
総合学習Ⅰ	選択 必修	講義	1	15												
総合学習Ⅱ	選択 必修	講義	2	30												
総合学習Ⅲ	選択 必修	講義	2	30												
総合学習Ⅳ	選択 必修	講義	2	30												
			26	670												

1. 衛生学・公衆衛生学Ⅱ

2 単位（必修）

第 3 学年 1 単位 （15 時間）

担 当 教 員 名	兼平 孝
授 業 科 目 概 要	人の健康と疾病予防の概念について学ぶ 人の健康問題とそれに関わる環境について学ぶ 疫学的手法を学び、疾病・異常の予防対策について学ぶ 地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや方法について学ぶ
目 的	衛生学・公衆衛生的な考え方や知識を活用し、集団あるいは地域社会の健康レベルを増進することを目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 ・自分と家族の健康を守る能力の向上をはかるとともに、医療人として、地域の人々の健康を守る人（職種）であるという意識の向上をはかる ・日常生活や予防の視点から、健康増進や、疾病の原因と予防について理解し、健康問題とそれに関わる要因についての理解を深めて問題解決に必要な判断力と行動力を養う ・地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや組織、その方法を習得する 【到達目標】 ・広い視野を持って、健康にかかわる社会の出来事（ニュース）に関心を持つ ・健康や病気には多くの要因が関わることを知り、その知識と理解を深める ・日常の生活習慣や予防の視点から、自分の健康に留意し、生活し、自己の健康を管理することができる ・地域保健活動に参加していく上で必要な基礎知識を習得する
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・2 年次 1 単位、3 年次 1 単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学」 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学」 【参考図書】 シンプル衛生公衆衛生学（南江堂） スタンダード衛生公衆衛生学（学建書院）
留 意 事 項	

授業計画：第3学年

回	内 容
1、2	食品と健康・1 国民栄養の現状と問題点、健康づくりのための各種指針
3	食品と健康・2 機能性食品、食中毒、食品添加物
4、5	地域保健 地域保健とは、地域保健の組織、地域の保健計画、住民の生活、地域特性、地域保健活動の進め方、健康日本21
6	母子保健 母子保健の意義、母子保健の現状、母性保健管理、小児保健管理、母子保健対策、母子歯科保健との関連
7、8	学校保健 学校保健の意義および概要、学校保健の活動とその組織
9	成人・老人保健・1 成人・老人保健の現状と課題、8020運動との関連
10、11	成人・老人保健・2 成人保健と老人福祉対策
12	産業保健 産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理、産業保健活動
13、14	精神保健 心の健康と障害、ライフサイクルからみた精神保健
15	講義の補追

2. 衛生行政・社会福祉

2 単位（必修）

第 3 学年 （30 時間）

担 当 教 員 名	千葉 逸朗
授 業 科 目 概 要	健康で文化的な生活を営むための社会支援、保険・医療・福祉の動向や社会保障制度、高齢化社会における福祉について概説する。
目 的	歯科衛生行政や社会保障の諸制度を学ぶ際にそれらの基礎となる行政の仕組みや取り組みを理解し、保健、医療、福祉での役割を学ぶ。
学 習 目 標	少子高齢化社会を迎え、医療需要が増大し多様化してきている。そこで衛生行政の仕組みや保健医療、さらに福祉関係の法規について精通し、社会福祉や社会保険制度における医療保障の諸政策について理解を深めることを目標とする。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 2 保健・医療・福祉の制度」（医歯薬出版） 配布プリント、Google form での練習問題
留 意 事 項	予習、復習を必ずすること。

授業計画：講義

回	内 容
1, 2	社会保障制度（概論） わが国の社会保障制度，社会保障の目標と機能，社会保障費の給付と国民の負担 ライフステージ別の社会保障制度，世界の社会保障制度
3, 4	衛生行政と関連法 1 衛生行政の目的，衛生行政の組織、地域保健法、母子保健法
5, 6	衛生行政と関連法 2 学校保健安全法、労働安全衛生法
7, 8	衛生行政と関連法 3 高齢者の医療の確保に関する法律、後期高齢者医療制度
9, 10	衛生行政と関連法 4 医療法、医薬品医療機器等法
11, 12	歯科三法 1 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法
13, 14	歯科三法 2 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法
15, 16	健康とは 健康増進法、歯科口腔保健法 後期高齢者医療制度
17, 18	国が行う統計調査 国勢調査、人口動態統計調査、国民生活基礎調査、患者調査他
19, 20	医療経済 国民医療費
21, 22	社会保険 1 年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険
23, 24	社会保険 2 医療保険
25, 26	社会保険 3 介護保険、地域包括ケアシステム、地域包括支援センター
29, 30	総復習

3.小児歯科学

1 単位（必修）

第 3 学年 （20 時間）

担 当 教 員 名	高崎 千尋
授 業 科 目 概 要	小児の成長発育および精神発達、小児の歯、歯列、咬合の発育、小児のう蝕の特徴と治療法、歯科的問題点、患児の対応法、正常な永久歯列を導くための装置、管理法を理解する。
目 的	小児の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	① 小児の成長発育を説明できる ② 歯の萌出と交換、歯列咬合の変化を説明できる ③ 小児の精神発達を理解し、年齢にあった対応ができる ④ 乳歯および永久歯のう蝕予防のための保健指導、処置ができる ⑤ 乳歯う蝕の特徴と乳歯の歯冠修復、歯内療法を説明できる ⑥ 小児の外科的処置および薬物療法を説明できる ⑦ 咬合誘導装置、口腔習癖除去装置の種類と意義を説明できる ⑧ 小児歯科の診療補助の前準備、術式、使用器材、処置後メンテナンスが説明できる ⑨
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「小児歯科学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1・2	小児歯科学概論 心身の発育
3・4	小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常
5・6	歯列・咬合の発育と異常 乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕
7・8	小児にみられる歯周疾患 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 小児歯科診療とその特徴 診察・検査・診断

回	内 容
9・10	母親教室 小児歯科における麻酔法 小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診療補助 保存修復） ラバーダム防湿・コンポジットレジン充填 メタルインレー修復・乳歯冠 コンポジットレジン冠
11・12	小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診療補助 歯内療法） 歯髄鎮静法・歯髄切断法・抜髄法・感染根管治療 幼若永久歯の歯内療法
13・14	小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診療補助 外科的処置、咬合誘導） 抜歯・外傷歯の処置 咬合誘導（各種誘導装置） フッ化ジアンミン銀
15・16	小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診察検査時の業務、う蝕予防） プラークコントロール・フッ化物応用・シーラント 小児歯科における患者との対応法 障害児の歯科治療
17・18	小児の口腔保健管理 歯科診療室の管理・器材の管理 乳歯冠の取り扱い
19・20	まとめ

4.障害者歯科・高齢者歯科 ―障害者歯科―

1 単位（必修）

第 3 学年 （20 時間）

担 当 教 員 名	木村 幸文
授 業 科 目 概 要	障害者の現状を把握し、障害の種類と歯科的特徴を理解する。障害者、高齢者と有病者の総合的な歯科医療における歯科衛生士の役割とその実際面について学習をする。
目 的	障害者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	様々な障害の種類と成り立ちを学び、障害者の特徴を理解する。 歯科治療時における注意点を学び歯科衛生士としての役割を学ぶ。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・障害者歯科 5 割、高齢者歯科 5 割で最終評価とする ・「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「障害者歯科学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	障害者の現況 障害とは 障害者の歯科診療 行動調整、障害者歯科の特殊性
3、4	障害の種類と歯科的特徴
5、6	障害者歯科における歯科衛生士の役割 摂食・嚥下障害の対応
7、8	行動調整における歯科診療補助の実際 障害別の対応
9、10	障害者の口腔保健管理

5. 障害者歯科・高齢者歯科 ―高齢者歯科―

担 当 教 員 名	横山 亜矢子
授 業 科 目 概 要	高齢者の身体的、精神的特性、さらに口腔の特性を把握、理解する。 高齢者の歯科診療および口腔保健管理における歯科衛生士の役割とその実際について学習する。
目 的	高齢者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	高齢者の歯科診療の歯科診療補助時の実際、留意点、および口腔保健管理における実際、留意点について学習し理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・障害者歯科5割、高齢者歯科5割で最終評価とする ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	高齢者歯科の現状 高齢者の健康と疾病 高齢者と薬剤 高齢者の特性 高齢者を支える保健、医療、福祉の基盤 薬剤の情報とその重要性
3、4	高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割 高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割 診療時の問題と留意点 診療内容に応じた補助対応 高齢者との接し方 歯科診療室での介助
5、6	高齢者の歯科診療の実際と歯科診療補助 高齢者の口腔保健管理 高齢者の歯科保健指導の実際と留意点 バイタルサインとモニタリング 疾病状態を考慮した歯科診療補助時の留意点 感染予防 摂食機能療法 歯科衛生士による口腔保健管理 日常的な口腔の器質的、機能的ケアと義歯 歯科保健指導の実際 摂食・嚥下状態と食物物性の関連
7、8	要介護高齢者と歯科衛生士 訪問歯科保健指導の実際 口腔ケアの必要性和効果 歯科衛生士と訪問活動 介護保険制度と歯科保健医療とのかかわり 介護保険制度の仕組み 訪問歯科保健指導の基本的知識 在宅での訪問歯科保健指導の流れ
9、10	まとめ

6. 歯科予防処置実習Ⅲ（実務教員による講義・実習）

5 単位（必修）

第 3 学年 2 単位（60 時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 赤間 伸子
授 業 科 目 概 要	マネキン上で習得した歯石除去技術を口腔内で実践し、各種器具の使用法や術前後の処置、器材の後始末、メンテナンスなどについて習得する。
目 的	歯石除去を口腔内で実践するために、歯石除去技術の向上を図り、患者の反応を見ながら施術する習慣を身につけさせる。
学 習 目 標	① マネキン上でキュレット操作ができる。 ② 相互実習により、鎌型スケーラーを使用して歯石除去ができる。 ③ 相互実習により、歯面研磨ができる。 ④ 歯石除去後のメンテナンスができる。 ⑤ 個々の口腔内にあった方法で歯石除去ができる。 ⑥ シャープニングができる。 ⑦ 予防処置と保健指導を応用した口腔保健管理ができる。 ⑧ 歯面清掃器、PMT C の器材、目的、方法を説明できる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論 歯科保健指導論」（医歯薬出版） プリント配布
留 意 事 項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第3学年

回	内 容
1～22	キュレット操作（臼歯部）
23～25	シャープニング シャープニング器械器具、方法、手用研磨、ポイント式研磨
26～28	マネキン実習・相互実習 歯面清掃器（エアポリッシャー） PMT C
29～34	相互実習 鎌型スケーラー、パワースケーラー
35～40	相互実習 歯面研磨・口腔内洗浄
41～46	合同実習
47～60	総復習

7. 歯科保健指導実習Ⅲ（実務教員による講義・実習）

4 単位（必修）

第3学年 1 単位 （30 時間）

担 当 教 員 名	高嶋 美佳
授 業 科 目 概 要	歯科保健指導論で学んだ内容を基礎として、対象別、症例別歯科保健指導の実際について示し、生涯を通じた歯科口腔管理ができる指導能力を習得させる。
目 的	対象別、症例別歯科保健指導ができるようになる。 症例の中の具体的問題点を抽出して、その問題解決に適する技法を具体的に検討できるようになる。
学 習 目 標	① 専門的・基礎的知識を整理し、症例分析に役立てることができる。 ② 歯科衛生教育活動における歯科衛生士の役割を説明できる。 ③ 保育所、幼稚園に入所する乳幼児を対象とした歯科衛生教育ができる。 ④ 指導に必要とされる媒体など作成し歯科保健指導ができる。 ⑤ 患者や相談者の訴えを正確にとらえることができる。 ⑥ 全身状態や口腔の状態の特徴をつかむことができる。 ⑦ 歯ブラシや各清掃用具の選択と使用法の指導ができる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・1 年次 1 単位、2 年次 1 単位、3 年次 2 単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版） プリント配布
留 意 事 項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第3学年

回	内 容
1～23	地域歯科保健活動の実践 保育所、幼稚園を対象とした健康教育のための媒体作成
24～26	訪問歯科保健指導 高齢者・障害者等に対する口腔ケアや対応について
27～30	症例別 歯科保健指導

8. 摂食機能訓練法

1 単位（選択必修）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	戸倉 聡
授 業 科 目 概 要	超高齢社会の中においては脳梗塞などの後遺症のため摂食機能低下がある患者が非常に多い。それらの人は義歯を形態的に直し、摂食嚥下機能訓練をすることで誤嚥性肺炎を防ぐことが出来るということを理解させる。同様に障害者にも摂食機能訓練が必要な患者が多いことを理解させる。
目 的	摂食機能療法を理解し、食事を与えるときに歯科医師の指示のもとで簡単な指導が出来るようにする。
学 習 目 標	1. 摂食・嚥下障害者の評価方法が説明できる 2. 摂食・嚥下のメカニズムが説明できる 3. 摂食・嚥下の機能障害について説明できる 4. 摂食・嚥下障害の評価ができる 5. 要介護高齢者の摂食能力と摂食状況・機能障害状況について説明できる 6. 摂食・嚥下と温度並びに味覚情報について説明できる 7. 食物の物性は味わいにどう影響するのかが説明できる 8. 摂食・嚥下障害に対する栄養調理の対応について説明できる 9. 在宅における摂食・嚥下障害への対応について説明できる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	まると図鑑 摂食嚥下ケア
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1、2	摂食・嚥下機能の基礎知識（1） 摂食・嚥下障害とは 摂食・嚥下にかかわる解剖学的知識
3	摂食・嚥下機能の基礎知識（2） 摂食・嚥下機能のメカニズム

回	内 容
4、5	摂食・嚥下機能の検査
6	摂食・嚥下機能の診断・評価
7、8	摂食・嚥下リハビリテーションの基礎知識
9	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（１） 摂食・嚥下訓練の基礎知識
10、11	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（２） 摂食・嚥下訓練の方法 間接訓練（基礎訓練）
12	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（３） 摂食・嚥下訓練の方法 直接訓練（摂食訓練）
13、14	発達障害児における摂食・嚥下リハビリテーション
15	介護予防

9. 臨床検査法

1 単位（必修）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	木村 幸文
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士に最小限必要な臨床検査の方式を習得する。
目 的	臨床検査の方法を学び、その正常値を学習し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	①検査と歯科衛生士の役割を理解する。 ②検査の種類を学ぶ。 ③生体検査（体温・脈拍・血圧・経皮的動脈血酸素飽和度）の方法を理解する。 ④尿の一般知識と尿検査の意味を理解する。 ⑤採血法と血液検査の知識を得る。 ⑥血液型検査の方法を理解する。 ⑦貧血検査・出血性素因検査・感染症検査について理解する。 ⑧肝機能検査の最低限の知識を修得する。 ⑨糖尿病検査の知識を得る。 ⑩病理検査について理解する。 ⑪口腔領域における各種臨床検査の方法を理解する。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「臨床検査」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	1 章 臨床検査とは （1）臨床検査の倫理と安全性 （2）臨床検査はなぜ必要か （3）どんな検査があるのか （4）検査成績の読み方
3	2 章 生体検査（生理機能検査） （1）体温検査 （2）脈拍検査

回	内 容
4、5	(3) 血圧検査 (4) 心機能検査 (5) 肺機能検査 (6) 筋電図検査
6	(7) 脳波検査 (8) 血中酸素濃度検査 3章 検体検査 (1) 血液を用いる検査 1.血液検査
7、8	2.血液凝固・線溶系検査 3.生化学検査
9	4.免疫・血清検査 5.血液型検査 6.その他の検査
10、11	(2) 感染症検査 (3) 病理検査
12	4章 口腔領域の臨床検査 (1) 口臭検査 (2) 味覚検査 (3) 歯科金属アレルギーの検査
13、14	(4) 舌の検査 (5) 口腔粘膜の検査 エックス線写真検査 マイクロスコープによる検査
15	まとめ

10. 歯科診療補助実習Ⅲ（実務教員による講義・実習）

5単位（必修）

第3学年 1単位（30時間）

担 当 教 員 名	菅原 和美
授 業 科 目 概 要	これまでに学習した歯科診療補助技術の熟練度を確し、重要項目について総合的に実習・講義を行う。
目 的	卒業後、即戦力となって活躍できるための技能を身に付ける。
学 習 目 標	・小児歯科治療の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・ラバーダム防湿の目的を理解し、準備と手順が説明できる ・寒天とアルジネート印象材の特性を理解し、連合印象採得の準備と説明ができる。 ・相互で連合印象採得ができる。 ・暫間被覆冠の目的を理解し、準備と手順が説明できる ・暫間被覆冠を模型上で製作できる。 ・補綴物製作の流れを理解し、説明できる。 ・歯科器械のメンテナンスができる。 ・個々の患者にあった、適切な介助ができる。 ・就業にあたっての心構えをもてる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・1年次2単位、2年次2単位、3年次2単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科材料」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科機器」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「小児歯科学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「矯正歯科学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学」（医歯薬出版） 適時資料配布
留 意 事 項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第3学年

回	内 容
1～8	歯科診療補助総合実習 上下顎印象採得・スタディモデル作製法
9～12	歯科診療補助総合実習 個人トレーの作成・義歯製作の流れ、義歯装着・修理
13～18	歯科診療補助総合実習 歯肉圧排法
19～27	歯科診療補助総合実習 暫間被覆冠作製法
28～30	まとめ
特1・2・3	歯科診療補助総合実習 ホワイトニング法（オフィスブリーチ）

11. 臨地実習・臨床実習Ⅲ（実務教員による実習）

20単位（必修）

3学年 7単位（315時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 赤間 伸子
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護について臨地、臨床の場で実習する。
目 的	医療従事者としての人格を養う。 これまでに習得した知識、技術（歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護）を、臨地・臨床の場において実践できる能力を養う。
学 習 目 標	・患者や歯科医師、スタッフから信頼され好感を持たれるよう、医療人として清潔感のある身だしなみを整えることができる。 ・患者や歯科医師、スタッフと良い人間関係をつくることができるよう、正しい日本語、正しい発音で挨拶や話ができる。また、相手の人格を尊重し、いたわりの気持ちを持った態度や行動がとれる。 ・受付対応事務ができる。 ・歯科予防処置ができる。 ・年代や状況等、個々に対応した保健指導ができる。 ・予診における歯科診療補助ができる。 ・歯科保存治療時の歯科診療補助ができる。 ・歯周治療時の歯科診療補助ができる。 ・歯科補綴治療時の歯科診療補助ができる。 ・口腔外科治療時の歯科診療補助ができる。 ・矯正歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・小児歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・X線撮影の歯科診療補助ができる。 ・高齢者とコミュニケーションをとることができる。 ・幼稚園児の発達段階がわかり、成長に合わせたコミュニケーションをとることができる。 ・障害者・高齢者歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・訪問歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・訪問歯科衛生指導ができる。 ・介護老人施設入所者に対して歯科口腔介護ができる。 ・公衆衛生現場において集団を対象とした歯科保健教育ができる。 ・歯科技工所の役割、業務が理解できる。 ・全身疾患を有する方（生活習慣病を有する方や抗がん剤治療を受けている方等）への口腔ケア、歯科診療補助ができる。 ・多職種と関わることができる。
成 績 評 価 方 法	・施設評価 ・臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 ・出席状況 ・提出物 ・1年次4単位、2年次9単位、3年次7単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 これまでに使用したすべての教科書、プリント
留 意 事 項	実習に臨む心構えをきちんともたせ礼儀作法や身だしなみに注意させる。 注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1	歯科診療所 臨床実習：1
2	歯科診療所 臨床実習：2
3	歯科診療所 臨床実習：3
4	歯科診療所 臨床実習：4
5	歯科診療所 臨床実習：5
6	歯科診療所 臨床実習：6
7	歯科診療所 臨床実習：7
8	歯科診療所 臨床実習：8
9	歯科診療所 臨床実習：9
10	歯科診療所 臨床実習：10
11	歯科診療所 臨床実習：11
12	歯科診療所 臨床実習：12
13	介護施設 臨地実習：1
14	介護施設 臨地実習：2
15	病院歯科 臨床実習：13
16	小児歯科 臨床実習：14
17	矯正歯科 臨床実習：15

12. チームケア（実務教員による講義）

1 単位（選択必修）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	北條 敬之 小山田 貴子 村松 真澄 源間 隆雄
授 業 科 目 概 要	患者・利用者中心の支援活動をチームで行うために、臨床現場で実際に行われている具体的な事例を聞き、他職種の特徴や多様性について理解する。 多職種連携が必要とされている背景を知り、理解を深める。
目 的	それぞれの職業における専門分野の特徴と多様性を理解する。 患者・利用者を中心とした多職種連携医療の意義と方法を理解する。 意欲・関心を高め、多職種との連携に役立てることができる。
学 習 目 標	・歯科衛生士以外の医療系職種について理解できる ・主な全身疾患とその対応について説明できる ・多職種連携時の歯科衛生士としての役割を理解できる ・臨床現場で求められている歯科衛生士像を理解できる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	適宜資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1、2	多職種連携医療とその背景 多職種連携における看護師の関わり方（村松）
3	全身疾患を持っている患者の特性について①（北條）
4	全身疾患を持っている患者の特性について②（北條）
5	全身疾患を持っている患者の特性について③（北條）
6	全身疾患を持っている患者の特性について④（北條）
7	全身疾患を持っている患者の特性について⑤（北條）
8	多職種連携時に求められる 歯科衛生士について①（小山田）
9	多職種連携時に求められる 歯科衛生士について②（小山田）
10	多職種連携時に求められる 歯科衛生士について③（小山田）
11	多職種連携時に求められる 歯科衛生士について④（小山田）
12	多職種連携時に求められる 歯科衛生士について⑤（小山田）
13	多職種連携における言語聴覚士の関わり方（源間）
14	多職種連携における言語聴覚士の関わり方（源間）
15	多職種連携における言語聴覚士の関わり方（源間）

13. 総合学習Ⅰ（実務教員による講義）

1 単位（選択必修）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光 中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 赤間 伸子
授 業 科 目 概 要	基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学んだことを総合的に学習する。科目ごとの知識を総合的に捉え、知識の統合を図る。
目 的	基礎分野、専門基礎分野、専門分野での知識をまとめ、総合的に捉えることで、科学的・論理的思考能力を育成する。
学 習 目 標	生命科学等の理解を深め、人体ならびに歯・口腔の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解し、健康・疾病について、その予防法と回復過程に関する知識をまとめ、観察力、判断力を培う。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上，「優」：80点以上，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	基礎分野、専門基礎分野で使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～15	教員のもとで、各自がまとめを行う。

14. 総合学習Ⅱ（実務教員による講義）

2単位（選択必修）

第3学年（30時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光 中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 赤間 伸子
授 業 科 目 概 要	専門分野で学んだことを総合的に学習する。科目ごとの知識を総合的に捉え、論理、技術の統合を図る。
目 的	専門分野の知識をまとめ、総合的に捉え、臨床の場面に適応できる能力を育成する。
学 習 目 標	歯科医療を科学的、論理的に理解し、論理と実践を結びつけて理解できる能力を培う。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～30	教員のもとで、各自がまとめを行う。

15. 総合学習Ⅲ（実務教員による講義）

2単位（選択必修）

第3学年（30時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光 中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 赤間 伸子
授 業 科 目 概 要	理論的思考力を養うため、これまでに学んだ中から学生が各自でテーマを考え、それについての理解を深める。
目 的	知識をまとめる力を身につける。
学 習 目 標	歯科衛生士業務の範囲内では自分の判断、自分の考えが求められる。そのためにみんなで議論をし自分の考えを述べる訓練をし、それが出来るようになる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～30	教員のもとで、各自がまとめを行う。

16. 総合学習Ⅳ（実務教員による講義）

2単位（選択必修）

第3学年（30時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光 中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 赤間 伸子
授 業 科 目 概 要	3年間で学んだことを集約する。多くの断片的歯科医学知識を立体的に組み立て、実際に臨床で有効に使えるようにする。
目 的	知識と技術の統合を目的とする。
学 習 目 標	歯科衛生士業務は殆どすべてが歯科医師の指示の基に行われることから、歯科衛生士教育では自分で判断する訓練がされていない。今後歯科衛生士に求められることは他の医科関係業種との連携であり、さらに介護の場面では全く異なった業種との連携が必要になってくる。その場面で歯科医師がいるとは限らず、歯科衛生士業務の範囲内では自分の判断、自分の考えが求められる。そのためにはみんなで議論し自分の考えを述べる訓練をし、それが出来るようになることが目標となる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～30	3年間で学んだ知識・技術の集大成を行う。